

日本語指導支援員による日本語能力判定(DLA等のアセスメント)を  
もとにした日本語指導の在り方

報告書

# 目 次

1. はじめに

2. 事業の概要

2-1. 研究活動の背景と目的

2-2. 研究活動の実際

2-3. DLA 研修

2-4. DLA の実施

2-5. DLA の評価及び日本語指導(活動)案作成に向けての協議

2-6. 活動案の作成及び中間意見交換会

2-7. 学校での日本語指導(活動)案の実践

2-8. 報告会の開催

2-9. アンケート結果

2-10. まとめ(おわりに)

3. 日本語指導(活動)案と教材

4. 講評

謝辞

## 1. はじめに

公共交通機関を利用する際に、外国語が聞こえてくることはもはや珍しくなくなり、近所に住む外国人住民も目に見えて増えてきた。出入国在留管理庁(2023)によると、令和5年6月末現在の国内の在留外国人数は322万3,858人で、過去最高を更新したという。

東大阪市の外国人住民は20,628人(2023年11月時点)で、市の全人口の約4.5%にのぼることが報告されており、市内では「多文化共生情報プラザ」にて行政サービスや情報提供がなされ、11種類の言語で相談が行われている。市内のものづくりの現場では、日本人と外国人社員がともに協力して業務にあたっている企業も増加している。

一方、市立小学校には、様々な文化背景を持つゲストティーチャーが東大阪市より派遣され、多文化共生教育が推進されている。東大阪市における大学と地域の多言語・多文化交流の連携の現状と展望は高橋ら(2022)に詳しい。そこでは、大学生・留学生と小学生との交流、大学生の活動を中心にしたNPO団体における地域多言語・多文化交流、大学生による外国人児童生徒への日本語教育支援について紹介され、考察がなされている。

また、自ら選択したわけではなく、親の決断により日本に居住することになった日本語指導が必要な児童生徒は2023年11月30日時点で東大阪市内に443名おり、彼らが学校での学習が可能になり生活していくことが喫緊の課題とされている。そこで、藤井・樋口・小川は令和5年東大阪市地域研究助成金を受け、市内近隣で日本語教育に携わる日本語教育関係者と小学校で日本語指導にあたる教員を結び、日本語指導が必要な児童に対し日本語能力のアセスメントを行い、子どもたちに相応しい指導内容を考察することにした。本書はその事業についてまとめたものである。

## 2. 事業の概要

### 2-1. 研究活動の背景と目的

前述したように、近年在留外国人の増加とともに、学校教育において日本語指導が必要な児童生徒の数も増え、今後さらなる増加も見込まれる。しかし、これらの児童生徒を受け入れる現場の教員が日本語指導における専門的知識や技能を十分に有しているとは言い難い状況であると言える。

東大阪市の小中学校も同様の状況であり、日本語指導加配教員が担当校を巡回指導し、児童生徒の対応、学校体制づくりに取り組んでいるが、個々の状況に応じて手探りで対応している。一方で、東大阪市内の大学や教育機関には、日本語教育、地域研究、日本語指導が必要な児童生徒に関する研究に携わっている研究者や教育者がいる。そこで、研究の知見を学校教育現場の教員と共有し、外国籍の児童生徒の学習支援に活用することができるのではないかと考え、本研究活動が始まった。

本研究は、次の2点を目的として活動が行われた。

- ①DLA を用いて日本語指導が必要な児童生徒の日本語能力の判定を行う。
- ②日本語指導が必要な児童生徒に対し、どのような指導方法が効果的であるか、①の判定をもとに日本語指導（活動）案を考え、現場に提案し、教員と共有する。

目的①を達成するために、本研究では、児童生徒の日本語能力を判定するためのツールとして、DLA を取り入れた。

DLA は、Dialogic Language Assessment の略称で、文部科学省が作成した対話型アセスメントのことである。東京外国語大学多言語多文化センターによると、文化的、言語的に多様な背景を持つ年少者の言語能力をマンツーマンによる対話を通して図る支援付き評価ツールとされている。日常会話はできるが、教科学習に困難を感じている児童生徒を対象にし、紙筆テストでは測れない潜在的な言語能力を測定することによって、学習支援のための指導計画や学習活動及び教材の選択について考える際のヒントが得られる。

### 2-2. 研究活動の実際

本研究活動は、以下の手順で行われた。

- ①(2023年5月～8月)DLA を実際に行う日本語指導研究協力者(以下、研究協力者)を募集し、研修を実施した。
- ②(2023年9月～10月)研究協力者が各学校においてDLA を実施し、児童の能力判定を行い、担当日本語指導教員と日本語指導（活動）案について協議を行った。

- ③(2023年11月～12月)日本語能力判定をもとにして日本語指導(活動)案を作成した。
- ④(2023年12月)日本語指導(活動)案について意見交換会を実施した。
- ⑤(2024年1月～2月)必要に応じて学校において指導(活動)案を実践した。
- ⑥(2024年2月)本事業及び指導(活動)案の報告会を行った。
- ⑦(2024年3月)研究活動報告書を作成した。

### 2-3. DLA 研修

本研究活動は、日本語指導が必要な児童生徒の日本語能力についてDLAによって判定し、それをもとに効果的な日本語指導(活動)案を考え、現場に提案を行う。

これを実践するために、各学校で日本語能力の判定を行う研究協力者を募集することとし、彼らを対象に、筆者らが日本語指導研究アドバイザー(以下、アドバイザー)となり、DLA研修を行った。

なお、研究協力者については、今後東大阪市の日本語教育に携わってもらうために、次の2点、①日本語教育に関する知識を持っていること、②東大阪市内及び隣接地域に在住もしくは勤務、通学していること、を条件として募集した。その結果、10名の方が研修に参加することとなった。

研修は5回(1回あたり約1時間半)、東大阪大学にて平日午後に行った。対面での研修であったが、各回、都合がつかない方にはオンラインでの研修を別日の平日夜に行った。ただし、オンラインの場合は、対面の研修を録画したものを事前に視聴してもらうようにし、時間を30分～1時間に短縮して行った。

研修内容は、基本的には2部構成で、前半にテーマ内容に関する講義、後半にワークショップとした。各回の日程及び内容は次のとおりである。

#### 第1回研修(実施日:5/15(月)、オンライン開催:5/19(金))

- ・本研究活動の流れの説明と、研修参加者による自己紹介(日本語教育や子どもの教育との関わり及び東大阪市との関わりについての自己紹介)
- ・東大阪市教育委員会より東大阪市の日本語指導の現状説明
- ・子どもの日本語教育における制度や取り組みについての説明
- ・ワークショップ:成人への日本語指導と子どもへの日本語指導の違いを考える

第2回研修(実施日:6/12(月)、オンライン開催:6/16(金))

- ・DLA の概要説明(現場で実際行う予定の<はじめの一步>(導入会話・語彙力チェック)<話す><読む>を中心に)
- ・ワークショップ:想定される子どものケース(子どもの DLA ステージ及び学校生活の状況や家庭での様子を記述)から、子どもの課題と日本語授業の目標と授業活動を考える

第3回研修(実施日:7/10(月)、オンライン開催:7/14(金))

- ・DLA のやり方の確認及び受講者間での練習(ロールプレイ)
- ・ワークショップ:実際の DLA <話す>の発話データ(『超基礎・第二言語習得研究』のデータをダウンロードし使用。)をもとに、児童の特徴を考え、その児童に対する日本語指導(活動)を考える。

第4回研修(実施日:8/10(木)、オンライン開催 8/11(金))

この回の研修については、日本語指導が必要な子どもたちへの教育及び研究の専門家である米澤千昌氏(大阪教育大学特任講師)を講師として招き、ご登壇いただいた。米澤氏には本研究事業に助言等で協力をいただいている。研修の内容は次のとおりである。

- ・DLA の評価を中心に、DLA の特徴、手順、ねらい、DLA を実施する際の留意点についての説明
- ・ワークショップ:米澤氏が実施した DLA <話す>と <読む>の発話データを用いた評価の実践

第5回研修(実施日:8/28(月)、オンライン開催 9/1(金))

- ・DLA の実施に向けてスケジュール、個人情報の取り扱いについて等留意点の確認
- ・子どもの力を伸ばす日本語指導(活動)案の例を紹介

研修の様子



## 2-4. DLA の実施

DLA 研修後は、9月から10月にかけて下記の小学校5校でDLAを行った。DLA対象児童は当該学校において選考してもらい、合計11名で内訳は下記のとおりである。研究協力者が10名だったので、研究協力者1名につき1名の児童に対しDLAを行った。ただし、鴻池東小は研究協力者のうち1名が児童2名のDLAを行った。

布施小学校:対象児童2名(担当研究協力者2名)

玉美小学校:対象児童3名(担当研究協力者3名)

鴻池東小学校:対象児童4名(担当研究協力者3名)

枚岡西小学校:対象児童1名(担当研究協力者1名)

孔舎衛小学校:対象児童1名(担当研究協力者1名)

DLAは授業1コマ(45分)で行った。このような時間的制約があったため、DLAすべての内容は取り扱わず、各児童に対しておおよそ次のように行った。

・<はじめの一步>(導入会話・語彙力チェック):5~10分程度

・<話す>:10~15分程度 基礎タスクの使用カード「日課」、対話タスクの使用カード「先生に質問」、認知タスクの使用カード「お話」と「消防車」ただし、4~6年生は「お話」と「環境問題」

・<読む>:20~30分程度

<聞く><書く>は取り扱わなかった。

なお、DLA実施等で各学校を訪問する際は、DLAを行う研究協力者10名を学校ごとに4グループに分けた(枚岡西小と孔舎衛小は対象児童が1名ずつのため同一グループとした)ので、基本的にはグループごとで行動するようにした。また、各グループ担当のアドバイザーも決め、その担当アドバイザーと一緒に当該学校を訪問した。

## 2-5. DLA の評価及び日本語指導(活動)案作成に向けての協議

DLAを実施した後に、研究協力者がDLAの評価を行い、児童の日本語能力ステージの判定をした。また、そのDLAの評価をもとに児童に効果的な日本語指導(活動)案を考えるが、日本語指導(活動)案作成に向けて、日本語指導教員と研究協力者、アドバイザーとで協議する機会を設けた。ただし、研究協力者1名が協議日の調整がつかず、DLA当日にDLA評価の報告も含めて協議を行った。

協議日には、研究協力者とアドバイザーが各学校を訪問し、研究協力者から日本語指導教員に評価シートを提示してDLAの評価を報告した。DLAの評価により、児童が抱えている困難の一因が見えてくる事例もあった。

一方、日本語指導教員からは、DLAを受けた児童の学校生活での様子、日本語指導教員が日本語指導で困難を感じていることや改善したいこと、対象児童に対してどのような力をつけさせたいと思っているか等を伺い、後に作成する日本語指導（活動）案において今後の望まれる支援につなげられるように聞き取りをした。

## 2-6. 活動案の作成及び中間意見交換会

DLAによる評価をもとにした日本語指導（活動）案の作成は、3段階のステップを踏んだ。

### ①研究協力者各グループ内でのアイデアの共有、意見交換

オンラインにて、同じグループの研究協力者らとグループ担当アドバイザーで1時間～1時間半程度の話し合いをもち、自らのアイデアを言語化、具体化する機会をもった。

### ②中間意見交換会（実施日：12/4(月)14:00～16:00）

より多くの意見を聞ける場として、中間意見交換会を東大阪大学において対面で設定した。中間意見交換会では、まずは、各自が全体に向けて作成した日本語指導（活動）案を説明し、その後、2つのグループに分かれて、それぞれの日本語指導（活動）案に対して感じたこと、疑問点等をコメントした。最後に、グループ内で出た話をまとめて報告した。

### ③中間意見交換会のコメントを参考に日本語指導（活動）案の再考

各グループでオンラインにて、中間意見交換会でのコメントを参考にして日本語指導（活動）案を再考する機会をもった。なお、中間意見交換会の欠席者へは、中間意見交換会の様子を録画しておいたので、それを事前に確認しておくように指示しておいた。

## 2-7. 学校での日本語指導（活動）案の実践

研究協力者が作成した日本語指導（活動）案は、各学校で1月から2月にかけて実践してもらった。

実践に先立って、日本語協力者及びアドバイザーが学校を訪問し、日本語指導（活動）案を提示し活動の流れ等の説明を行った。



## 2-8. 報告会の開催

各学校において実施した日本語指導（活動）案に関するフィードバックを得るため、報告会を次のとおり開催した。

日時：2/21（水）15:00～17:00

場所：東大阪大学

内容：・本事業の説明及び東大阪大学副学長からの挨拶

- ・東大阪市役所公民連携協働室及び教育委員会人権教育室担当者の挨拶
- ・2つのグループに分かれて、各学校で実践された内容について報告
- ・研究協力者から実践等についての感想
- ・米澤千昌氏からの講評

### 報告会の様子



各学校での実践は、協力者の日本語指導（活動）案を現場にあわせて実践していることが多く、教育現場を知る日本語指導教員のノウハウと日本語教育との融合が少なからず起こっているようであった。時間の関係で、本報告会までにすべての日本語指導（活動）案が行われていないものもあったが、今後も引き続き実践していきたいとの話もいただけた。

## 2-9. アンケート結果

研究協力者に本研究事業に参加に関するアンケートを実施し、次のような回答を得られた。

### ① DLA 研修について

第1～5回の対面での研修参加者は第4回を除いて半数未満であった。アンケートで、欠席となった理由を確認したところ、その多くが研修実施日が参加しにくい日時だったためとの回答であった。研修日が平日午後であり、仕事や学校の時間との兼ね合いや家庭の都合で参加できなかったとのことである。今後同様の研修等を計画する場合、参考にしたい。

ただし、研修内容については参加者全員が、大変満足した／概ね満足したと回答している。

### ② DLA 実施について

研究協力者10名のうち、8名が初めてのDLA実践であった。そのためか、実際に行ってみてDLAが「概ねできた」が半数の5名に対し、「あまりできなかった」が半数の5名であった。DLAが対話型のツールであるため、担当した児童の性格によってはあまり話をせずに対話が思うように進められず対応に困ったケースもあったかもしれない。

### ③ 中間意見交換会について

アンケートの回答者全員から日本語指導（活動）案作成に役に立ったとの回答が得られた。

### ④ 報告会について

アンケートの回答者全員全員から報告会は教案を再考するのに役に立ったとの回答があった。一方的に研究協力者の指導内容を押しつけるのではなく、現場を熟知している日本語指導教員とのコミュニケーションにより互恵的な気づきを与えられ、そのような回答に結びついたのではないだろうか。

### ⑤ 本事業について

子どもの日本語教育に知ることができ勉強になった、また、子どもと触れ合うことができ良い経験になった、今後も子どもの日本語教育に携わりたいとの回答が多かった。

ただし、一部の方で、子どもの成長に対する責任感の強さから、今後の関わりに躊躇されている人もおり、自分自身の技術、経験をさらに磨かなければならないとの慎重な意見も見られた。

今後ますます本事業が対象とする児童生徒の増加が見込まれることから、本研究事業の必要性が期待されると言えよう。

## 2-10. まとめ(おわりに)

本稿では、東大阪市の外国人住民及び日本語指導が必要な児童生徒の現状を述べ、本事業の説明を行った。今回の活動はDLAを用いて日本語能力を判定し、日本語指導(活動)案を提案することを目的とした。活動を進めていくうちに、日本語指導教員と研究協力者が相互に情報を共有し活発な意見交換を行い、連携が生まれた。そして、さらに充実した日本語指導(活動)案へとつながった。

もともと本報告書では事業の報告のみを行う予定だったが、研究協力者により豊かな発想の指導(活動)案が提出され、教育現場で求められている内容だと確信し、本報告書に含めることにした。本書が東大阪市内外で用いられ、一人でも多くの児童が笑顔で日本語が学べるようになることを祈っている。また、本事業が日本語教育従事者と小中学校で教壇に立つ先生方が協働で教育にあたるきっかけになれば幸いである。

## 参考資料

出入国在留管理庁(2023)「令和5年6月末現在における在留外国人数について」(2024年3月5日閲覧)

東京外国語大学 多言語多文化共生センター「DLA 普及事業」

<https://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/dla.html> (2024年3月5日閲覧)

東大阪市「人口の動き」第477号 2023年12月(2024年3月5日閲覧)

文部科学省「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm) (2024年3月5日閲覧)

小川佳子・樋口尊子・藤井みゆき(2023)「日本語指導支援員による日本語能力判定(DLA等のアセスメント)をもとにした日本語指導の在り方—東大阪市における外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント研修を中心に—」『ASIA—社会・経済・文化—』第10号 東大阪大学国際教養こども学科

高橋朋子(2022)「令和3年度東大阪市地域研究活動報告書 留学生と小中学生の多言語・多文化交流」

高橋朋子・樋口尊子・藤井みゆき(2022)「東大阪市における大学と地域の多言語・多文化交流の連携—現状から展望を探る—」『ASIA—社会・経済・文化—』第9号 東大阪大学国際教養こども学科

### 3. 日本語指導（活動）案と教材

ここでは2章で述べたとおり、10名の協力者によって作成された33の日本語指導（活動）案と教材を紹介する。11名の子どもたちのために考えられた指導案であるが、他の子どもたちにも使用してもらえるように助言も記入した。また、実際に使用した実践例や実践者の声も記している。学年と滞在歴、「話す」「読む」のDLAの結果（ステージ1-6）は一つの目安として記しているが、幅広い年齢や子どもの持っている力に応じて使用していただきたい。

なお、ページ数は各指導案の開始ページを記載している。ワークシートや絵カードなどはコピーして使用することを前提としている。

|    | 活動名                          | 対象児童                                  | ページ |
|----|------------------------------|---------------------------------------|-----|
| 1  | 友達にインタビューをし、感情表現を増やそう        | 小学1年生<br>日本生まれ<br>話す2.1／読む1.5         | 12  |
| 2  | 記憶定着のための「絵カルタ作り」             | 小学校2年<br>日本滞在歴5年<br>話す2.7／読む2.2       | 17  |
| 3  | すごろく遊び                       |                                       | 18  |
| 4  | 神経衰弱                         |                                       | 18  |
| 5  | 気持ちをつたえよう                    | 小学校2年<br>日本滞在歴3年（移動あり）<br>話す2.5／読む2.8 | 19  |
| 6  | 四コマまんがをかんせいさせよう              |                                       | 19  |
| 7  | こんなときどうする？                   |                                       | 20  |
| 8  | ダジャレクイズ                      |                                       | 22  |
| 9  | 生活語彙を増やす「自分だけのカルタを作ろう！」      | 小学校4年<br>日本生まれ<br>話す3.4／読む3.4         | 26  |
| 10 | 授業内で実施できる「自分たちだけのカルタをつくろう！」  |                                       | 27  |
| 11 | 自分の日本語に自信が持てる「『天才ノート!』を作ろう！」 |                                       | 28  |
| 12 | 「気持ちカード」で学ぼう①②③④             | 小学校4年<br>日本生まれ<br>話す3.8／読む1.8         | 29  |
| 13 | 昔話を使って説明する力をつけよう             |                                       | 56  |
| 14 | おうちの人に聞いて自国の文化を知ろう           | 小学校4年<br>日本滞在歴5年1か月<br>話す4.8／読む5.0    | 56  |
| 15 | ことばを増やす                      |                                       | 60  |
| 16 | 多読                           |                                       | 61  |
| 17 | オリジナルの物語を書こう                 | 小学校5年<br>日本生まれ<br>話す4.1／読む3.0         | 61  |
| 18 | 母国について説明しよう                  |                                       | 63  |
| 19 | 多様な価値観を知り、自分の大切さを知ろう         | 小学校5年<br>日本生まれ<br>話す4.7／読む4.8         | 67  |
| 20 | 昔と今を比べてみよう                   |                                       | 68  |

|    |                                       |   |    |
|----|---------------------------------------|---|----|
| 21 | 擬音語・擬態語を学ぶ                            | 小学校 5 年<br>日本滞在歴 4 年<br>話す 4.9 / 読む 3.3 | 70 |
| 22 | 歴史を知る                                 |   | 70 |
| 23 | プロの漫画家について知る                          |   | 71 |
| 24 | カタカナ語に強くなる                            |   | 71 |
| 25 | WEB 多読サイトを利用していろいろな分野の読み物を読む          |   | 72 |
| 26 | いろいろなピクトグラムを見たり新しく考案したりして、人間の体の描き方を学ぶ |   | 72 |
| 27 | 中学校がどんなところかを知る。その先の高校、専門学校、大学について知る   |   | 73 |
| 28 | 自分のアイデンティティについて考える                    |   | 73 |
| 29 | 待遇表現に気づく                              |   | 73 |
| 30 | 文章を読んで犯人を捜し出す「推理クイズ」                  | 小学校 6 年<br>日本滞在歴 8 年<br>話す 3.5 / 読む 2.4 | 74 |
| 31 | オノマトペかるた作り                            |   | 77 |
| 32 | 四コマまんがを完成させよう                         | 小学校 6 年<br>日本滞在歴 5 年                    | 80 |
| 33 | あらすじを伝えよう                             | 話す 3.7 / 読む 3.5                         | 81 |

|                 |  |  |
|-----------------|--|--|
| 対象児童            | 小学校1年 日本生まれ DLA 評価:話す 2.1/読む 1.5   |  |
| 課題              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちが伝えられない</li> <li>・語彙が少ない</li> <li>・書く力も少し弱い</li> </ul>   |  |
| 活動名             | (1) 友達にインタビューをし、感情表現を増やそう  |  |
| 目標              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちが表現できるようになる</li> <li>・語彙力を増やす</li> <li>・書く力をつける</li> </ul>   |  |
| 教材教具・準備物        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビュー用紙(15 ページ)</li> <li>・作文用紙(16 ページ)</li> </ul>   |  |
| 活動目安時間          | 学習活動   | 備考   |
| 1トピック<br>約10分程度 | <p>① 4つのトピックで児童が実際にどう思っているかを話す<br/>(教師は各トピックについて児童がどのように思っている(いた)かを、質問しながら聞き出す。下記の Q は、各トピックで聞き出したいこと。)</p> <p><b>トピック1 「遠足」</b><br/>(教師とのやり取り 例)<br/>教師:どこに遠足に行った?<br/>児童:~<br/>教師:何をした?<br/>児童:~をした<br/>教師:何が一番楽しかった?<br/>(遠足のことを思い出しながら、どうだったかを確認)</p> <p>Q:何が楽しかったか→例) すべりだい、お弁当<br/>どう楽しかった→例) 友達と仲良くすべりだいで遊んだから<br/>みんなで一緒にお弁当を食べたから<br/>楽しくなかった場合もどうして楽しくなかったかを聞き出す。</p> <p><b>トピック2 「体育」</b><br/>(教師とのやり取り 例)<br/>教師:体育で何をした?<br/>児童:~<br/>教師:何が一番楽しかった?<br/>(体育で楽しかったことからできなかったこと、できるようになったことなどを聞きだす。そしてどうだったかを聞く)</p> <p>Q:~ができるようになったときどうだった?→例) うれしかった<br/>~ができなかったときどうだった?→例) 悔しかった、いやだった</p> | <p>教師は、最終的に質問はするが、ワークシート通りに質問せず自然なやり取りでよい。<br/>また、質問するだけでなく、児童の発話をメモもする。</p> |

|                |  |  |
|----------------|--|--|
|                | <p><b>トピック3 「友達と遊ぶ」</b><br/> (教師とのやり取り 例)<br/> 教師: 友達と何をして遊ぶ?<br/> 児童: ~<br/> (誰と?どこで?他には?)<br/> Q: 友達と約束をしていて友達がこなかったらどう思う?<br/> 友達と喧嘩したときはどんな気持ち?</p> <p><b>トピック4 「先生」</b><br/> (教師とのやり取り 例)<br/> 教師: ~先生はどんな先生?<br/> 児童: おもしろい<br/> 教師: どんなお話をする?<br/> 児童: ~<br/> (日頃の先生との関わりやどう感じているかを聞く)<br/> Q: (一番関わりのある先生、もしくは担任の先生)<br/> 怒られたときはどんな気持ちだった?<br/> ほめられたときはどんな気持ちだった?</p> <p><b>【宿題】</b> 児童がクラスメイトなど友達にインタビューを行う。(インタビュー内容は、自分が教師に受けたのと同じトピック)</p> | <p>インタビュー用紙を渡す。</p>  |
| <p>次の授業までに</p> | <p>② 宿題<br/> 宿題として、児童はワークシートに次の授業までに友達にインタビューしておく。</p>   | <p>一人で聞き取りが困難なときは、教師が補助する。</p>   |
| <p>40 分程度</p>  | <p>③ 聞き取りしたことを共有<br/> 児童: 宿題として友達に聞いてきたことを先生に話す。<br/> (できるだけ児童の口から伝えてもらう。困難な場合は教師が聞き出す。)</p> <p>④ 宿題をしてきたうえでもう一度ワークシートをする<br/> 教師: 質問<br/> 児童: 各トピックについて、もう一度先生の質問に答える</p> <p>※③④を分けてしなくてもいい<br/> トピックを選んで1つ1つ一緒にしていってもいい<br/> お話があまり進まなかったら、1つ1つしていく。</p>   | <p>時間がなければトピックを選んでもらって話してもいい。</p> <p>教師は普通に質問するのではなく、友達の意見も踏まえながらもう一度ワークシートをする。この時点で友達が言った感情表現でわかっていなさそうなものがあれば、説明をする。</p> |

|       |  |  |
|-------|--|--|
|       |  | そして、前回と違いがあるかどうか、変化が出ているかどうかを見る。   |
| 40分程度 | <p>⑤ 文に書き表してみる→絵日記<br/>トピックの中で最近あったイベントがあればそれをテーマにする<br/>※もしなければ、書きたいことを書く。<br/>※もしくは、以前同じトピックで書いてあまり書けなかった作文があればそれと比べられるように同じものでもう一度書いてもよい。</p> <p>⑥ 教師からのフィードバック<br/>教師:どれだけ書けるようになったかを見る。<br/>→フィードバックを行う</p> | この時点であまり変化がなかったり、書き進めれなかったりしたら教師が児童に絵日記の絵だけを描くように言い、絵を頼りに作文を進めていく。教師が質問し、児童が答え、文にしていく。 |





なまえ: \_\_\_\_\_

ともだち  
友達にインタビューをしよう

|   |   |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">えんそく<br/><b>遠足</b></p> <p>① 遠足へ行ったときどんな気持ち<br/>だった？</p> <p>② どうしてそう思った？</p>  | <p>①</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>②</p> |
| <p style="text-align: center;">たいいく<br/><b>体育</b></p> <p>① 1年生になって<br/>できるようになったことは何？<br/>できるようになって<br/>どんな気持ちだった？</p> <p>② 1年生になって<br/>できなかったことは何？<br/>できなかったとき<br/>どんな気持ちだった？</p> | <p>①</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>②</p> |
| <p style="text-align: center;">ともだち あそぶ<br/><b>友達と遊ぶ</b></p> <p>① 遊ぶ約束をしていて友達が<br/>来なかったらどんな気持ち？</p> <p>② 友達とけんかをしたとき、<br/>どんな気持ち？</p>  | <p>①</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>②</p> |
| <p style="text-align: center;">せんせい<br/><b>先生</b></p> <p>① 先生に怒られたときは<br/>どんな気持ち？</p> <p>② 先生にほめられたときは<br/>どんな気持ち？</p>  | <p>①</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>②</p> |



|                 |   |  |
|-----------------|---|--|
| 対象児童            | 小学校2年 日本滞在歴5年 DLA 評価:話す2.7/読む2.2  |  |
| 課題              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙が少ない。</li> <li>・特に弱い品詞などがある。</li> <li>・短期記憶から長期記憶への定着が弱い。</li> <li>・生活言語が日本語以外である。</li> </ul>                 |  |
| 活動名             | (2) 記憶定着のための「絵カルタ作り」  |  |
| 目標              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの中で、楽しみながら語彙を増やし、短期記憶・長期記憶を鍛える手助けをする。</li> <li>・自分で作文したり絵を描いたり、といった作業を通して言葉の定着をはかる。</li> </ul>                |  |
| 教材教具・準備物        | 画用紙、筆記用具(ペンや色鉛筆等)、カルタの見本  |  |
| 活動目安時間          | 学習活動  | 備考                                       |
|                 | <b>【カルタの概要】</b><br>絵札に合った文の読み札を探す遊び方のカルタを作る。読み札と取り札セットで一枚の絵になるようにする。文は、例えば「形容詞」や「擬音語・擬態語」など、特に力をつけさせたい品詞やカテゴリーの言葉を使った文にする。取り札を取るときにその言葉を声に出してというルールにする。 | ※要所で母語通訳/翻訳を入れるなど、母語によるサポートがあることがより望ましい。 |
| 1回目<br>(15~45分) | <b>【授業計画例】(形容詞のカルタの場合)</b><br>様々な形容詞を表す絵を見せながら形容詞を学び、2枚で1セットになる絵を描いてみる。   | 児童の生活体験と結びつけて言葉の理解を進める。                  |
| 2回目<br>(15~45分) | 形容詞の復習をし、絵の続きを描く。絵に合った文を考える。  | 作文は教師がサポートし、やさしい言葉を使う。                   |
| 3回目<br>(15~45分) | 絵を見ながら、前回考えた文をカードに書いていく。  | 単語、言い回しの復習、記憶の定着を意識する。                   |
| 4回目<br>(15~45分) | カルタで遊ぶ。できれば他の児童と一緒に遊ぶ。  | 交流の機会や達成感を実感できる機会を設ける。                   |

### カルタ作成例



## 実践報告

- ・「満足」、「感激」という言葉を使い、児童が嬉しかった経験を教師が聞き出す形でカルタを作成した。
- ・児童が得意な日本語以外の言語で言葉の意味を確認し、「最近、感激したことは？」と尋ねた。  
そこで最近の出来事を児童が話し、わからないことばを補足しながら「感激」の意味の確認も行った。
- ・「話す」活動にもなった。派生して別の単語の学習にもつながった。

| 活動名      | (3) すごろく遊び  |   |
|----------|---|---|
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの中で楽しみながら語彙を増やす。</li> <li>・他教科につながる横断的な学びを促進する。</li> </ul>  |   |
| 教材教具・準備物 | 画用紙、筆記用具(ペンや色鉛筆等)   |   |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考  |
| 10~15分   | <p>マス目が少なめの簡単なすごろくを用意する。それぞれのマス目にデタラメに文字を入れる。サイコロで出た目通りに駒を進め、止まったところにある文字から始まる言葉を言う。</p> <p>文字の代わりに色のシールを使っても良い。その場合、止まったところの色をしているものの名前を言う。</p> <p>なかなか言葉が出てこないときは教師が手助けをする。また、語彙が増えてくると、文字や色の代わりに、質問や指示文を入れる。</p> | <p>授業のウォーミングアップとして行っても良い。</p> <p>児童の日本語のレベルに合わせてすごろくのマス目や内容を調節する。</p> |

## 実践報告

- ・児童の知っている言葉が限られていたので、教師の方で言葉カードを準備した。
- ・教師の方で児童が知らないと考えられる言葉を用意し、意味の確認をして語彙を増やすようにした。
- ・1時間目に教師の作成したすごろくで遊ぶ中で、児童が知っている言葉の程度が確認できた。

| 活動名      | (4) 神経衰弱   |  |
|----------|--|--|
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら短期記憶を鍛える。</li> <li>・他教科につながる語彙の学習を促進する。</li> </ul> |  |
| 教材教具・準備物 | ペアになった絵カード、文字カード   |  |
| 活動目安時間   | 学習活動   | 備考   |
| 10~15分   | <p>同じ絵、あるいは文字が書かれたペアのカードをたくさん用意し、神経衰弱の要領で遊ぶ。学年相当、あるいは予習として3年生以降(児童の学年以降)の教科で使う物や言葉を用いるのも良い。</p>  | <p>授業のウォーミングアップとして行っても良い。各教科の教科書に出てくる言葉を使用しても良い。</p> |


参考資料(言葉の絵カード掲載ページ)


株式会社パディンハウス ちびむすドリル「言葉の絵カード【仲間ことば】」

<https://happyilac.net/kcard-category.html>




にほんごワーク「形容詞(つなぎ)―外国人児童生徒向け無料学習プリント」<https://nihongowork.com/2431/>

|          |   |   |
|----------|---|---|
| 対象児童     | 小学校2年 日本生まれ 日本滞在歴約3年(移動あり) DLA 評価:話す2.5/読む2.8   |   |
| 課題       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らが直面している状況や、自分の考え・思いを日本語で伝えることが苦手で意思疎通を図ることが難しい。(そのため、人間関係の構築にも課題がある。)</li> <li>・習得語彙が少ない。</li> <li>・いかにも勉強という取り組みが苦手である。</li> </ul> |   |
| 活動名      | (5) 気持ちをつたえよう   |   |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵についての対話を通じて、感情を表す語などの日常語彙の定着を促す。</li> <li>・身近な絵を見て感じたことを、自分の言葉(単語や文)で表現する経験を重ねることを目指す。</li> </ul>                                    |   |
| 教材教具・準備物 | 絵カード<br>株式会社パディンハウス「ちびむすドリル」<br>【気持ち 絵カード】の「気持ち表す言葉」<br><a href="https://happyilac.net/kcard-category.html#down9">https://happyilac.net/kcard-category.html#down9</a>         |  |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考  |
| 15分      | 「ちびむすドリル」の【気持ち 絵カード】の「気持ちを表す言葉」を消した状態で見、教師/保護者や他の児童に「気持ちを表す言葉」を言う。(1回3単語程度とりあげる。)   | すぐに発話できない場合には、対話をしながら児童の理解を促す。  |

|          |  |  |
|----------|--|--|
| 活動名      | (6) 四コマまんがをかんせいさせよう  |  |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵について説明することを通じて、日常語彙の定着を促す。</li> <li>・物語の起承転結を考えて並びかえをすることで、筋道を立てて考える力を伸ばす一助とする。</li> </ul>  |  |
| 教材教具・準備物 | ワークシート<br>高知県「まんがを活用した教材について」<br>【4コマ漫画を完成させよう】<br><a href="https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2019031400268/file_contents/file_20193203114253_1.pdf">https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2019031400268/file_contents/file_20193203114253_1.pdf</a> |   |
| 活動目安時間   | 学習活動   | 備考   |
| 15分      | 提示された四つのコマを見て、コマの順番を考える。<br>それらのコマをワークシートに貼る。<br>他の児童に向かって、並びかえたコマを一つ目から順にストーリーを話す。<br>他の児童によるストーリーについての説明を聞く、または彼からの質問に答える。<br>筋の通ったコマの順番になっている場合は、他の児童がワークシートに花丸を描く。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学6年生「四コマまんがを完成させよう」と同じ活動</li> <li>・他の児童は、当該児童よりも年長者(言語的・認知的能力が高い者)を想定している。</li> </ul> |

※実践例は小学6年生「四コマまんがを完成させよう」にまとめて記載

|          |   |   |
|----------|---|---|
| 活動名      | (7) こんなときどうする？  |   |
| 目標       | <p>・絵や文章に関する対話を通じて、日常語彙・教科学習語彙の定着を促す。</p> <p>・身近な場面や人物の様子について、自分の言葉(文)で説明する経験を重ねることを目指す。</p> <p>・絵や文章の登場人物になりきることで、自らの気持ちや感想を伝える力を伸ばす手助けをする。</p>  |   |
| 教材教具・準備物 | <p>絵カード(21 ページ)<br/>         [くすぐる][人をなぐる/ける][隣の人と話す][おこなわとびをする子どもたち][長机で疑問に思う子どもたち]<br/>         ワークシート<br/>         「やんちゃワーク」の【こんな時どうする?】<br/> <a href="https://yanchawork.com/dousuru2/">https://yanchawork.com/dousuru2/</a></p>  |  |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考  |
| 15分      | <p>(a)絵カードまたは(b)ワークシートを用いて、「こんなときどうするか」を考える。</p> <p><b>(a)絵カード</b><br/>         次項にある絵カード「ジェンダーニュートラルなフリーイラスト」の【学校の生活】1～5の中から1枚選び、それを見ながら他の児童と対話する。(全5回)<br/>         他の児童と話した内容を、教師に日本語で伝える。その際、他の児童も一緒にイラストカードを見て、考えを共有する。</p> <p><b>【授業計画例】</b><br/>         児童らは、それぞれ以下の質問をする。<br/>         [1.くすぐる][2.人をなぐる/ける]<br/>         「友だちにされたらどう思うか/している友だちを見つけたらどうするか」「どうしてこのような行動をしたのか」<br/>         [3.隣の人と話す]<br/>         「授業中に友だち/自分がしていたらどうするか」「どうしてこのような行動をしたのか」<br/>         [4.おこなわとびをする子どもたち]<br/>         「一緒に遊びたいと伝えるときどうするか/友だちを誘うときどうするか」<br/>         [5.長机で疑問に思う子どもたち]<br/>         「授業中分からないことがあったらどうするか」</p> <p><b>(b)ワークシートの場合</b><br/>         HP「やんちゃワーク」の【こんな時どうする?】を音読したあと、自分の思いや考えを他の児童に話す。(1回2場面程度とりあげる。)音読の時点で理解が進んでいない場合には、単語をはじめ、登場</p> | <p>他の児童との協同活動を想定。(異年齢の)児童らがやり取りすることを前提にしているが、児童が一人の場合は教師とやり取りを行う。</p>               |

|  |   |  |
|--|---|--|
|  | <p>人物や描かれている場面について他の児童の質問に答えることで内容を確認する。</p> <p>【授業計画例】<br/>他の児童は、適宜以下の質問をする。<br/>「誰がいる?」「誰が何をした?」「これは何?」「楽しい?嬉しい?悲しい?怒っている?」</p> |  |
|--|---|--|

**実践報告**

- ・主に、やんちゃワークの【マナー間違い探し】を使用して活動した。【こんなときどうする?】も使用した。
- ・身近な、自分の生活の中でのことを表現する機会となり、とてもよかった。非常にのめり込んで取り組むことができた。
- ・何がだめかを「しちゃだめ」と、たくさん説明することができた。自ら書く様子も見られた。
- ・今後ソーシャルスキルかるたなども用いて、言語的発達だけでなく、認知的発達を促していきたいと考えている。

**工夫**

母語が同じ児童での活動にし、母語で話してから、日本語で表現するののも一つの手段だと考えている。

**絵カード**

〔くすぐる〕



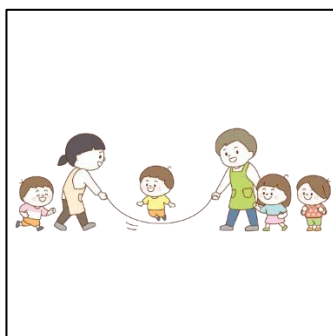
〔隣の人と話す〕



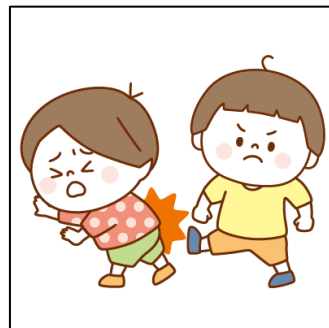
〔人をなぐる〕



〔おこなわとびをする子どもたち〕



〔人をける〕



〔長机で疑問に思う子どもたち〕



出典：性教育いらすと「ジェンダーニュートラルなフリーイラスト」の【学校の生活】






<https://seikyoiuku-illustr.com/gender-neutral/>

|          |   |  |
|----------|---|--|
| 活動名      | (8) ダジャレクイズ   |  |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・似た発音で違う意味の語彙に触れることで、名詞を中心に様々な語彙の定着を促す。</li> <li>・楽しく発音しながら、日本語のリズムに慣れることの手助けをする。</li> <li>・自分の知っている語彙を組み合わせダジャレを作ること、ひとつの語彙に対する用法の幅を広げる手助けをする。</li> </ul> |  |
| 教材教具・準備物 | ワークシート(23-25 ページ)<br>自作2種:【ダジャレクイズ①~⑫】、【ダジャレクイズ白紙】  |  |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考   |
| 15分      | <p>ワークシートの□に入る言葉を、同じ文の中から抜き出して答える。(1回5問)</p> <p>文が完成したら、発音する。</p> <p>大人または他の児童と対話して、ダジャレの意味を確認する。</p> <p>新しいダジャレを作る。</p> <p>可能であれば一部分を隠し、クイズとして教室内に掲示する。</p>                                      | <p>ワークシートには□に入る単語の絵を記載している。</p> <p>促音や長音を無視しているところがあるので、必要に応じて問題を削除してください。</p> |








【ダジャレクイズ①～⑥】

① ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )






|   |  |
|---|--|
| 1 | □□□をあいす           |
| 2 | □□□がねぼうして「あ、ひるだ」  |
| 3 | アリが10ぴき□□□□□      |
| 4 | アルミカンのうえにある□□□    |
| 5 | いったい□□□□はなんにんじゃ?  |

④ ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )





|    |   |
|----|---|
| 16 | きみはタマゴの□□がすき?        |
| 17 | □□□□をたべたら「きゃー、べつじん」  |
| 18 | □□□□□にいくのはきょうかい?     |
| 19 | □□□がトイレですっきりん        |
| 20 | □□がくっついた             |

キリトリ

② ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )






|    |  |
|----|--|
| 6  | □□のけつえきがたは AB がた        |
| 7  | □□□□がトイレで「おお、かみがたい!」  |
| 8  | □□□がないのはおっかねえ         |
| 9  | □□□がひっくりかえる           |
| 10 | □□□□をたべてゲームにかつどん      |

⑤ ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )






|    |   |
|----|---|
| 21 | □□がもくもくでてきた          |
| 22 | □□のクリーム            |
| 23 | □□がぬげた             |
| 24 | こうちょうせんせい、ぜっ□□□□□  |
| 25 | □□□□のすばやいうごきぶり     |

キリトリ

③ ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )

|    |   |
|----|---|
| 11 | 「□□がいる!」「たしかに!」  |
| 12 | □□□□をふんで、がびよーん   |
| 13 | カメのこうらに□□□をかけた   |
| 14 | □□□はかれー          |
| 15 | □□□っていいかんじ       |

⑥ ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )



|    |  |
|----|--|
| 26 | この□□□、まちがってそう   |
| 27 | この□□□□はとりにくい    |
| 28 | □□がとまりそうでこまった   |
| 29 | □□□□がにもつをはこんどる  |
| 30 | サルが□□           |

【ダジャレクイズ⑦～⑫】

⑦ ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )

|    |  |
|----|--|
| 31 | □□□□、さぼってんじゃねえ  |
| 32 | □□□はさんまんえん      |
| 33 | □□□□がしゃべる       |
| 34 | そうじは□□にまかせなさい   |
| 35 | □□はなくぞう         |

⑩ ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )






|    |   |
|----|---|
| 46 | □□をはこぶ         |
| 47 | □□□がトイレでふんばった  |
| 48 | □□□がたべるのはパンだ   |
| 49 | □□□がふっとんだ      |
| 50 | □□がごほんとせきをした   |

.....キリリ.....

⑧ ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )

|    |   |
|----|---|
| 36 | □□□はうまそうだ     |
| 37 | □□□□をみたいよう   |
| 38 | □□□□がおっこちたー  |
| 39 | □□□のちょうかい    |
| 40 | □□□にでんわ      |

⑪ ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )






|    |  |
|----|--|
| 51 | □□□□がじゃまでまえがみえん      |
| 52 | □□□のなかはまっくら         |
| 53 | □□□□だんごをみたらしい       |
| 54 | □□□をはずしたらめがねー       |
| 55 | □□□□なんだけど、なんかようかい?  |

.....キリリ.....

⑨ ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )

|    |  |
|----|--|
| 41 | □□□にいとれ           |
| 42 | □□□□のかいしゃがとうさんした  |
| 43 | とおりがりの□□がいる       |
| 44 | □□には2わニワトリがいる     |
| 45 | □□がねころんだ          |

⑫ ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )

|    |   |
|----|---|
| 56 | □□□にのるとらくだ         |
| 57 | □□□のいれもん           |
| 58 | □□□をはしろうか          |
| 59 | □□□□がなくて「わー、ショック」  |
| 60 | わたしの□□□□みてちょうだい    |

【ダジャレクイズ白紙】

● ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

● ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

.....キリトリ.....

● ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

● ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

.....キリトリ.....

● ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

● ( )月( )日( )曜日  
( )年( )組 名前( )

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 対象児童  | 小学校4年 日本生まれ DLA 評価:話す3.4/読む3.4  |   |
| 課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活語彙が少ない。</li> <li>・日常生活で使う「はさみ」「窓」「卵」などの語彙もまだ完全に習得できていない。</li> <li>・書くことも苦手で文法的に苦手な品詞も多い。</li> <li>・短期記憶が苦手。</li> <li>・家庭での使用言語が日本語以外なので日本語に触れる機会が少ない。</li> <li>・母語に関しても話すことはできるが読み書きはできない。</li> </ul>   |   |
| 活動名   | (9) 生活語彙を増やす「自分だけのカルタを作ろう！」   |   |
| 目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びながら生活語彙を増やし、まずは短期記憶を鍛えることを目標とする</li> <li>・自分で調べたり、自分で作業したりする過程を経て言葉の定着をはかる</li> </ul>   |   |
| 教材教具・準備物  | 画用紙、えんぴつ、色鉛筆<br>パソコンやタブレットなど(知らべ物に使える道具)<br>カルタの見本  |   |
| 活動目安時間  | 学習活動  | 備考  |
| 宿題<br>(活動時間は個人の自由で、時間をかけて調べてもよし、短い時間で調べてもよしとする) | <p>活動内容:自分たちだけのカルタを作ろう!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自分で言葉を調べ、その言葉を文頭に短文を作る。</li> <li>・その短文を画用紙に書いてカルタの読み札を作る。</li> <li>・画用紙に絵を書いて、読み札と対になる取り札を作る。</li> <li>・自分たちの力だけで作ったカルタで遊んでみる。</li> </ul> <p>活動①:教師からカルタを作る説明を聞く。各自でカルタがどんなものなのか調べて、結果を報告。(報告は良く関わる先生であれば特定の1人に限らない。カルタを知っていれば省略可)</p> <p>活動②:「あ～ん」まで五十音順で、自分がどのひらがなを担当するのかを児童が選ぶ。※この時、もし担当したいひらがなが被った場合は公平にじゃんけんなどで決める。</p> <p>活動③:自宅にて、自分の担当するひらがなから始まる言葉をパソコンやタブレットなどで調べて来る。<br/>         ※パソコンやタブレットなどを使える環境が無い場合、辞書の使い方を知っている児童は辞書で対応してもらう。辞書の使い方を知らない場合は、良く関わる先生から聞き取り調査をするなどで対応。</p> <p>活動④:調べた言葉を文頭に短文を3つ、自宅で考えて来る。</p> <p>活動⑤:その短文の中から、お気に入りを1つ選ぶ。画用紙</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・結果を誰かに報告させることで、アウトプットをはかる。</li> <li>・自分で選ぶことによるワクワク感。調べ学習も頑張ろうと思えるのでは?</li> <li>・すぐに手を差し伸べるのではなく、自発的に調べ学習に取り組めるように誘導する。</li> <li>・放課後の母国語教室で、いちどカルタを遊んでみるのも良いと思う。実体験ができない場合、動画を見るなども良い。その方が札を作りや</li> </ul> |

|          |   |     |     |          |      |     |        |      |       |       |     |      |     |  |
|----------|---|-----|-----|----------|------|-----|--------|------|-------|-------|-----|------|-----|--|
|          | <p>を2枚用意し、1枚には選んだ短文を書きカルタの読み札を作る。もう片方の1枚には絵を書いて、読み札と対になる取り札を作る。</p> <p>※画用紙は学校側が準備し、あらかじめカルタサイズにカットしたものを児童に持って帰らせる。読み札と取り札を作る作業は自宅で各自行う。できあがったものは、学校に持ってきてもらう。</p> <p>活動⑥:自分たちで作ったカルタを使って、休み時間に遊んでみる。※この活動は学校で行う。休み時間や放課後などに20分から30分程度で遊べると思う。</p> <p>余裕があれば:カルタで遊んだ児童で、自分で作ったカルタで遊んでみた感想を、お互いに共有する。</p> <p>【五十音カルタ作成の語彙例】</p> <table border="0"> <tr> <td>易しい</td> <td>難しい</td> </tr> <tr> <td>・あいすくりーむ</td> <td>・合言葉</td> </tr> <tr> <td>・いす</td> <td>・いいかげん</td> </tr> <tr> <td>・うさぎ</td> <td>・うるう年</td> </tr> <tr> <td>・えんぴつ</td> <td>・浴道</td> </tr> <tr> <td>・おなべ</td> <td>・臍げ</td> </tr> </table> <p>【短文の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいすくりーむを食べる/合言葉を決める</li> <li>・いすに座る/いいかげんなことを言う</li> <li>・うさぎが跳ねる(飛ぶ)/うるう年は四年に一回来る</li> <li>・えんぴつを削る/浴道を歩く</li> <li>・おなべを洗う/臍げな記憶しかない</li> </ul> <p>【カルタの標準サイズ】 52mm × 73mm くらい</p> | 易しい | 難しい | ・あいすくりーむ | ・合言葉 | ・いす | ・いいかげん | ・うさぎ | ・うるう年 | ・えんぴつ | ・浴道 | ・おなべ | ・臍げ | <p>すいと思う。</p> <p>・日常的な語彙の力がある程度有る児童かどうかで、調べる言葉の難易度を変えても良い。</p> <p>・なるべく児童の力でカルタを作成させるようにする。</p> <p>・ヒントをたくさん与えて、本人が自分の力でカルタを完成させたという達成感を味わえるようにアシストする。</p> |
| 易しい      | 難しい   |     |     |          |      |     |        |      |       |       |     |      |     |  |
| ・あいすくりーむ | ・合言葉  |     |     |          |      |     |        |      |       |       |     |      |     |  |
| ・いす      | ・いいかげん  |     |     |          |      |     |        |      |       |       |     |      |     |  |
| ・うさぎ     | ・うるう年   |     |     |          |      |     |        |      |       |       |     |      |     |  |
| ・えんぴつ    | ・浴道   |     |     |          |      |     |        |      |       |       |     |      |     |  |
| ・おなべ     | ・臍げ   |     |     |          |      |     |        |      |       |       |     |      |     |  |

|          |   |   |
|----------|---|---|
| 活動名      | (10) 授業内で実施できる「自分たちだけのカルタをつくろう!」  |   |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の選んだ言葉を使って文章を作れるようになることを目標とする</li> <li>・子どもが興味のあることを活かして、それを授業内に取り入れる</li> </ul>  |   |
| 教材教具・準備物 | 画用紙、のり、ネームペン<br>教科書<br>辞書など(言葉探しにつかえるもの)  |   |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考  |
| 45分      | <p>活動内容:授業内で教科書の単元とコラボしカルタを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を選ぶ</li> </ul> <p>(教科書に出てくる言葉のカードを担当が予め用意しておく。その言葉カードを担当が班ごとに何枚か配り、調べてみたい言葉のカードを選んでもらう。文章を書いてもらう事を言い、文章が思いつかない時は他のカードに変更しても良いと伝える。)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫して書けているかアドバイス。</li> </ul> |

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだカードの言葉を使って短文を考える</li> <li>・考えた短文を担当に見てもらう</li> <li>・友達の作品を鑑賞する</li> <li>・担任から OK が出たら画用紙にネームペンで短文を書く</li> <li>・1枚目のカルタカードができた児童は自分で辞書などを使い言葉を探して、言葉カードを作成し短文を作る</li> <li>・クラスの全員が1枚以上のカルタカードを作成することができたら、作ったカルタを実際に遊んでみる(班内で、読み手はじゃんけんで決める)</li> <li>・時間が有ればカルタを近くの班と交換し、対戦してみる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の作品を紹介する場を設け、児童をたくさん褒めて楽しく活動できるように指導を行う。</li> </ul> |
|--|---|---|

※これは活動(9)を取り出しの日本語指導ではなく在籍学級での取り組みとした事例である。

### 実践者の声

- ・日本語指導に通うことに抵抗がある場合は、在籍学級でみんなで取り組める活動にアレンジする。
- ・教科書とコラボしているためクラスでの授業にも使用できる。4年生だけでなく、色々な学年でも使用可能である。

| 活動名          | (11) 自分の日本語に自信が持てる『『天才ノート!』を作ろう!』  |   |
|--------------|--|---|
| 目標           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味を持っていることを調べることで日本語語彙を増やすことを目標とする</li> <li>・自分で日本語を使って文章を作成することを練習し自信を持ってもらう</li> </ul>   |   |
| 教材教具・準備物     | ノート 1冊<br>筆記用具   |   |
| 活動目安時間       | 学習活動   | 備考  |
| 1つのテーマにつき1ヶ月 | 活動内容:『天才ノート』を作ろう!<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートを 1冊準備する</li> <li>・教師から、月に1回テーマを出してもらう</li> </ul> 例:好きなお菓子/好きなアーティスト/苦手な教科 等<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマについてじっくり考え、それについて考えたことを文章にしたり、絵にしたりする(絵を書いた場合は、なぜその絵を書いたのかの説明を文章にする)</li> <li>・文章は1~2行程度の短文でも良い(理想はノート見開きくらい)</li> <li>・教師に文章を確認してもらう</li> <li>・最後に母語話者教師から教えてもらいながら、その文章を母語で書いてみる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの勉強への意欲、子どもの好きと言う感情、そういったものを伸ばすための活動になるので、無理しない程度に楽しく学べるテーマが良い。</li> </ul> |

参考資料:『天才ノートを始めよう』岩田かおり著(ダイヤモンド社)

### 工夫

- ・文章を確認する際に「どうして」という理由の部分会話を自然に引き出せると良い。
- ・母語の習得も兼ねて、どちらの言語にも対応した活動にした。(母語の習得もしたいという希望があったため。)

|          |  |   |
|----------|--|---|
| 対象児童     | 小学校4年 日本生まれ DLA 評価:話す 3.8/ 読む 1.8  |   |
| 課題       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・形容詞、形容動詞の語彙が乏しい。</li> <li>自分の気持ちをうまく伝えられず、人間関係でトラブルが起こることがある。</li> <li>・順序立てて説明をすることが苦手。</li> </ul>  |   |
| 活動名      | (12)「気持ちカード」で学ぼう①<悔しい・羨ましい・寂しい・嬉しい・恐ろしい>   |   |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感情表現を表す語彙を正しく理解する。</li> <li>・身の回りで起こりそうな出来事を客観的に捉えることで、その後の適切な対応を考える。</li> </ul>   |   |
| 教材教具・準備物 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ち絵カード1回目(35-36 ページ)※神経衰弱をする際は、透けないように厚紙などを貼ってご使用ください。</li> <li>・行動カード1回目 計5枚(43 ページ)※切り離してお使いください。</li> <li>・ワークシート1回目(47-48 ページ)</li> <li>・場面カード(55 ページ①)※切り離してお使いください。</li> </ul>              |   |
| 活動目安時間   | 学習活動   | 備考  |
| 3分程度     | <b>形容詞神経衰弱をする</b><br>気持ちカード(計10枚)を裏返し、漢字とひらがなで書かれた同じ形容詞のカードを探す。<br>カードをひく時は書かれた形容詞を声に出すルールにする。   | 使用する気持ちカード<br>・くやしい ・悔しい<br>・うらやましい ・羨ましい<br>・さびしい ・寂しい<br>・うれしい ・嬉しい<br>・おそろしい ・恐ろしい |
| 6~7分程度   | <b>ワークシート(1回目)に記入</b><br>ワークシートの <sup>おもて</sup> 表面を使用。<br>1. イラストの表情に合う形容詞を線で結ぶ。<br>2. これらの形容詞がどんな場面で使われるのか、合う例文を線で結ぶ。   |   |
| 10~15分程度 | <b>場面カード(1回目)</b><br>ドッジボールのイラストを見せながら場面説明をする。<br>「(○で囲った男子児童を指しながら)私はドッジボールが大好きです。でも友達の田中君は自分ばかりボールを投げて私に全然ボールを渡してくれません。私はどんな気持ちですか」<br><b>気持ち絵カード</b> ※ひらがな表記5枚を使う<br>気持ちカード5枚を机に並べ、私の気持ちを選んでもらう。<br>(いくつ選んでも可)<br>選んだあと、その形容詞を選んだ理由を聞く。 | 使用する気持ちカード<br>・くやしい<br>・うらやましい<br>・さびしい<br>・うれしい<br>・おそろしい                            |

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | <p><b>行動カード(1回目)</b></p> <p>「私はこのあと、どうしたらいいと思いますか」</p> <p>5枚の行動カードを机に並べ、適切な行動だと思うものを選んでもらう。</p> <p>(該当する答えがない場合は空欄カードを選ぶ。)</p> <p>そのカードを選んだ理由を聞き、私の思いや田中君の気持ちを推測する。</p> <p>例</p> <p>「田中君に嫌われたくないから我慢してドッジボールを続ける」カードを選んだ場合、</p> <p>我慢をしながら、田中君と遊ぶドッジボールは楽しいかな？</p> <p>明日も遊びたいって思うかな？など</p> <p><b>セリフを書こう</b></p> <p>ワークシートの裏面を使用。</p> <p>私は田中君にどんな言葉をかけたら良いか。</p> <p>言葉遣いにも気をつけながら、吹き出しに書いてもらう。</p> <p>相手を傷つける発言を書いた場合には、言われた立場になって考えてみる。</p> | <p>使用する行動カード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腹が立つから何も言わずに怒って帰る。</li> <li>・ぼくにもボールを回してもらおうよ、田中君に言う。</li> <li>・田中君に嫌われたくないから、我慢してドッジボールを続ける。</li> <li>・田中君が持っていたボールをうばって自分が投げる</li> <li>・空欄カード</li> </ul> |
|--|---|---|

### 🌱 発展

学んだ形容詞・形容動詞が定着しない時は、イラスト付きで壁に掲示したり、下敷きに貼るなど言葉を発したい時にすぐに目に入るところに提示できるよう工夫する。

|          |  |   |
|----------|--|---|
| 活動名      | (12) 「気持ちカード」で学ぼう②<悲しい・つまらない・恥ずかしい・悔しい・怖い>   |   |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感情表現を表す語彙を正しく理解する。</li> <li>・身の回りで起こりそうな出来事を客観的に捉えることで、その後の適切な対応を考える。</li> </ul>   |   |
| 教材教具・準備物 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ち絵カード2回目(37-38 ページ) ※神経衰弱をする際は、透けないように厚紙などを貼ってご使用ください。</li> <li>・行動カード2回目 計5枚(44 ページ) ※切り離してお使いください。</li> <li>・ワークシート2回目(49-50 ページ)</li> <li>・場面カード(55 ページ②) ※切り離してお使いください。</li> </ul> |   |
| 活動目安時間   | 学習活動   | 備考  |
| 3分程度     | <p><b>形容詞神経衰弱をする</b></p> <p>気持ちカード(計8枚)を裏返し、漢字とひらがなで書かれた同じ形容詞のカードを探す。</p> <p>※「つまらない」カードは漢字用を作成していないので使用しない。</p> <p>カードをひく時は書かれた形容詞を声に出すルールにする。</p>  | <p>使用する気持ちカード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かなしい ・悲しい</li> <li>・はずかしい ・恥ずかしい</li> <li>・くやしい ・悔しい</li> <li>・こわい ・怖い</li> </ul> |



|                 |  |   |
|-----------------|--|---|
| <p>6~7分程度</p>   | <p><b>ワークシート(2回目)に記入</b></p> <p>ワークシートの<sup>おもて</sup>表面を使用。</p> <p>1. イラストの表情に合う形容詞を線で結ぶ。<br/>2. これらの形容詞がどんな場面で使われるのか、合う例文を線で結ぶ。</p>   |   |
| <p>10~15分程度</p> | <p><b>場面カード(2回目)</b><br/>鬼ごっこをするイラストを見せながら場面説明をする。<br/>「私は昨日鬼ごっこをしました。<br/>私が鬼になった時、友達の山本君をタッチしましたが、山本君は鬼を交代してくれず、逃げてしまいました。<br/>私はどんな気持ちだったと思いますか。」</p> <p><b>気持ち絵カード ※ひらがな表記5枚を使う</b><br/>気持ちカード5枚を机に並べ、私の気持ちを選んでもらう。<br/>(いくつ選んでも可。)<br/>選んだあと、その形容詞を選んだ理由を聞く。</p> <p><b>行動カード(2回目)</b><br/>「私はこのあと、どうしたらいいと思いますか」<br/>5枚の行動カードを机に並べ、適切な行動だと思うものを選んでもらう。<br/>(該当する答えがない場合は空欄カードを選ぶ。)<br/>そのカードを選んだ理由を聞く。自分も同じような体験をしたことがあれば掘り下げる。</p> <p><b>セリフを書こう</b><br/>ワークシートの裏面を使用。<br/>私は山本君にどんな言葉をかけたら良いか。<br/>言葉遣いにも気をつけながら、吹き出しに書いてもらう。<br/>相手を傷つけたり、不快に思わせる発言を書いた場合には、言われた立場になって考えてみる。</p> | <p>使用する気持ちカード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くやしい</li> <li>・はずかしい</li> <li>・こわい</li> <li>・かなしい</li> <li>・つまらない</li> </ul> <p>使用する行動カード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山本君をあきらめて他の人を追いかける。</li> <li>・おもしろくないと言って鬼ごっこをやめる。</li> <li>・鬼になってくれるまで、ずっと山本君をタッチし続ける。</li> <li>・山本君に聞こえるように、タッチしたことを伝える。</li> <li>・空欄カード</li> </ul> |

 発展

学んだ形容詞・形容動詞が定着しない時は、イラスト付きで壁に掲示したり、下敷きに貼るなど言葉を発したい時にすぐに目に入るところに提示できるよう工夫する。

|          |  |  |
|----------|--|--|
| 活動名      | (12)「気持ちカード」で学ぼう③<騒がしい・楽しみだ・可哀そうだ・懐かしい・心配だ>  |  |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>感情表現を表す語彙を正しく理解する。</li> <li>身の回りて起こりそうな出来事を客観的に捉えることで、その後の適切な対応を考える。</li> </ul>   |  |
| 教材教具・準備物 | <ul style="list-style-type: none"> <li>気持ち絵カード3回目(39-40ページ)※神経衰弱をする際は、透けないように厚紙などを貼ってご使用ください。</li> <li>行動カード3回目 計5枚(45ページ)※切り離してお使いください。</li> <li>ワークシート3回目(51-52ページ)</li> <li>場面カード(55ページ③)※切り離してお使いください。</li> </ul>                            |  |
| 活動目安時間   | 学習活動   | 備考   |
| 3分程度     | <b>形容詞神経衰弱をする</b><br>気持ちカード(計10枚)を裏返し、漢字とひらがなで書かれた同じ形容詞のカードを探す。<br>カードをひく時は書かれた形容詞を声に出すルールにする。   | 使用する気持ちカード<br>・さわがしい・騒がしい<br>・たのしみだ・楽しみだ<br>・かわいそうだ・可哀そうだ<br>・なつかしい・懐かしい<br>・しんぱいだ・心配だ |
| 6~7分程度   | <b>ワークシート(3回目)に記入</b><br>ワークシートの <sup>おもて</sup> 表面使用。<br>1イラストの表情に合う形容詞を線で結ぶ。<br>2これらの形容詞がどんな場面で使われるのか、合う例文を線で結ぶ。  |  |
| 10~15分程度 | <b>場面カード(3回目)</b><br>ドッジボールをして鼻血を出している子どものイラストを見せながら場面説明をする。<br>「私は昨日山本君と田中君とドッジボールをしました。田中君が投げたボールが山本君の鼻に当たり、山本君は鼻から血が出てしまいました。あなたはどんな気持ちですか。」<br><b>気持ち絵カード</b> ※ひらがな表記5枚を使う<br>気持ちカード5枚を机に並べ、私の気持ちを選んでもらう。(いくつ選んでも可)<br>選んだあと、その形容詞を選んだ理由を聞く。 | 使用する気持ちカード<br>・さわがしい<br>・たのしみだ<br>・かわいそうだ<br>・なつかしい<br>・しんぱいだ                          |
|          | <b>行動カード(3回目)</b><br>「私はこのあと、どうしたらいいと思いますか」<br>6枚の行動カードを机に並べ、適切な行動だと思うものを  | 使用する行動カード<br>・「何やってるんだよ」と言って田中君を責める。   |

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | <p>選んでもらう。<br/>         (該当する答えがない場合は空欄カードを選ぶ。)<br/>         そのカードを選んだ理由を聞く。自分も同じような体験をしたことがあれば掘り下げる。</p> <p><b>セリフを書こう</b><br/>         ワークシートの裏面を使用。<br/>         私は山本君にどんな言葉をかけたら良いか。<br/>         相手が嬉しい気持ちになる声かけをたくさん考えてもらい、<br/>         その中で一番良いと思う言葉を吹き出しに書く。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・山本君に「ボールをちゃんとよけない方が悪い」と言う。</li> <li>・心配なので山本君をほけん室に連れて行く。</li> <li>・「鼻血が出てるー」と言って笑う。</li> <li>・担任の先生に田中君が鼻血を出したことを伝える。</li> <li>・空欄カード</li> </ul> |
|--|---|---|

 発展

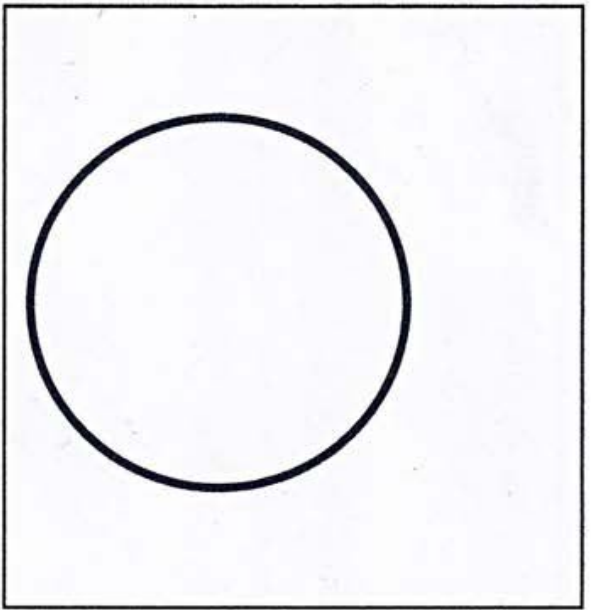
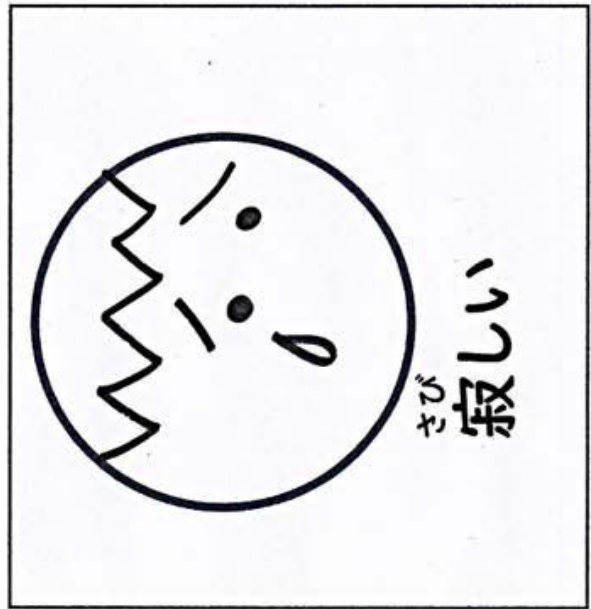
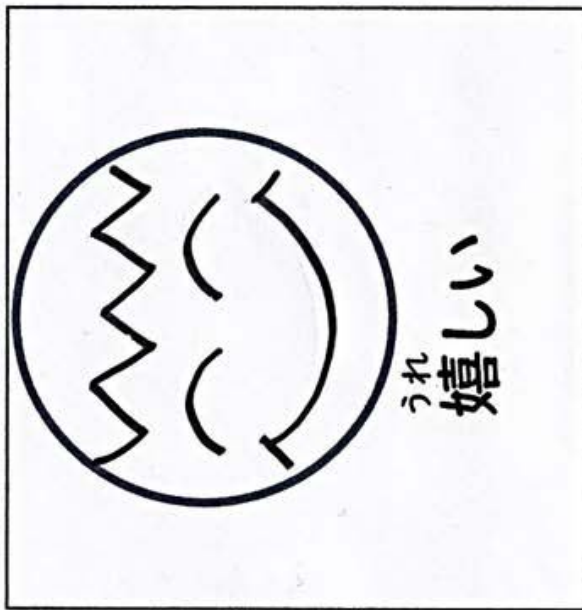
学んだ形容詞・形容動詞が定着しない時は、イラスト付きで壁に掲示したり、下敷きに貼るなど言葉を発したい時にすぐに目に入るところに提示できるよう工夫する。

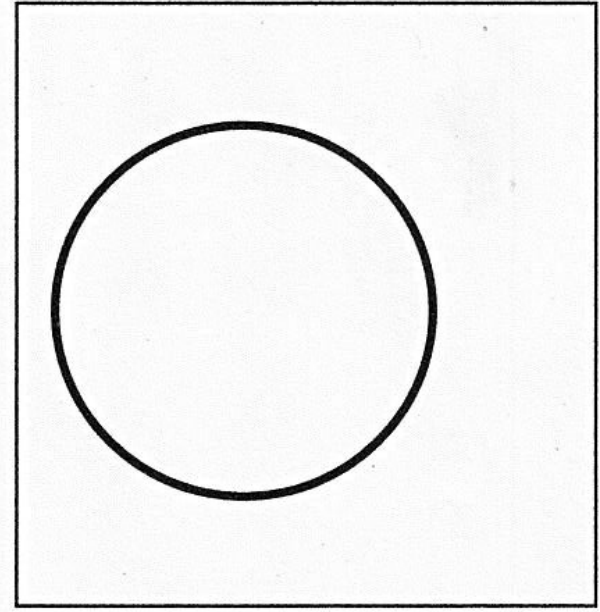
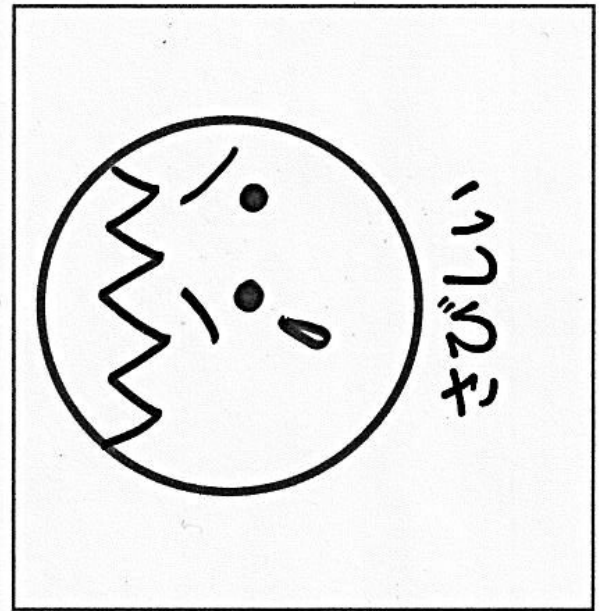
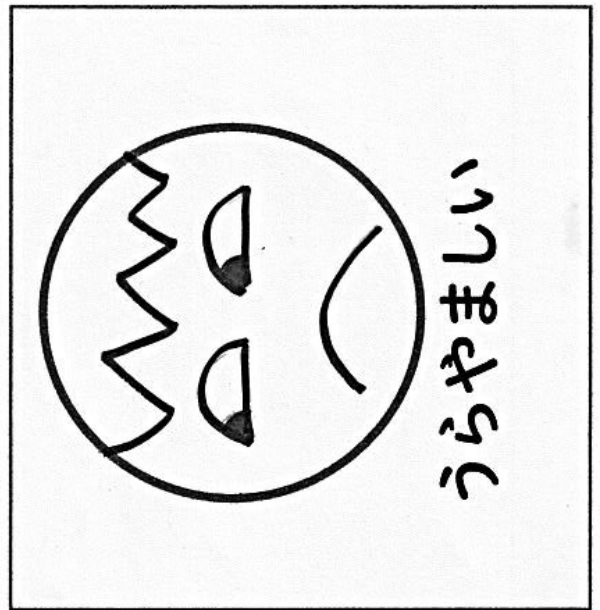
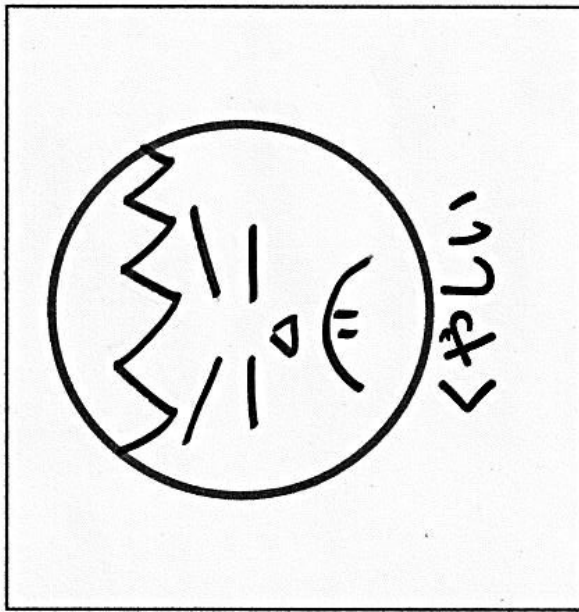
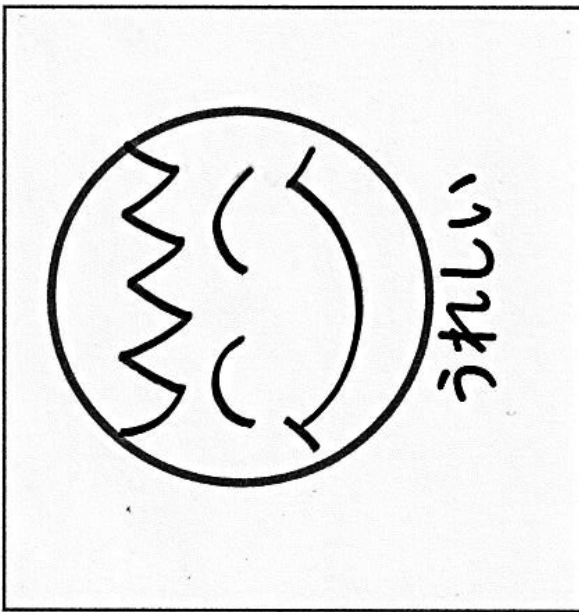
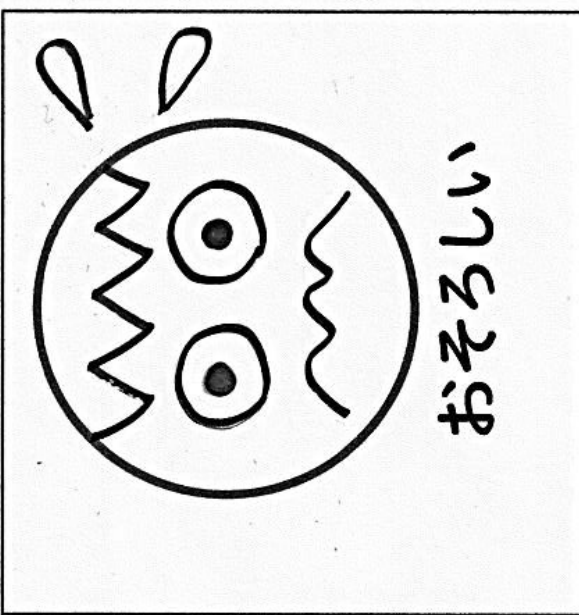
|          |   |  |
|----------|---|--|
| 活動名      | (12) 「気持ちカード」で学ぼう④<熱心だ・迷惑だ・ご機嫌だ・悲しい>  |  |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感情表現を表す語彙を正しく理解する。</li> <li>・身の回りて起こりそうな出来事を客観的に捉えることで、その後の適切な対応を考える。</li> </ul>  |  |
| 教材教具・準備物 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ち絵カード4回目(41-42ページ)※神経衰弱をする際は、透けないように厚紙などを貼ってご使用ください。</li> <li>・行動カード4回目 計5枚(46ページ)※切り離してお使いください。</li> <li>・ワークシート4回目(53-54ページ)</li> <li>・場面カード(55ページ④)※切り離してお使いください。</li> </ul> |  |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考   |
| 3分程度     | <p><b>形容詞神経衰弱をする</b><br/>         気持ちカード(計8枚)を裏返し、漢字とひらがなで書かれた同じ形容詞のカードを探す。<br/>         ※「つまらない」カードは漢字用を作成していないため使用しない。<br/>         カードをひく時は書かれた形容詞を声に出すルールにする。</p>   | <p>使用する気持ちカード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねっしんだ</li> <li>・熱心だ</li> <li>・めいわくだ</li> <li>・迷惑だ</li> <li>・ごきげんだ</li> <li>・ご機嫌だ</li> <li>・かなしい</li> <li>・悲しい</li> </ul> |

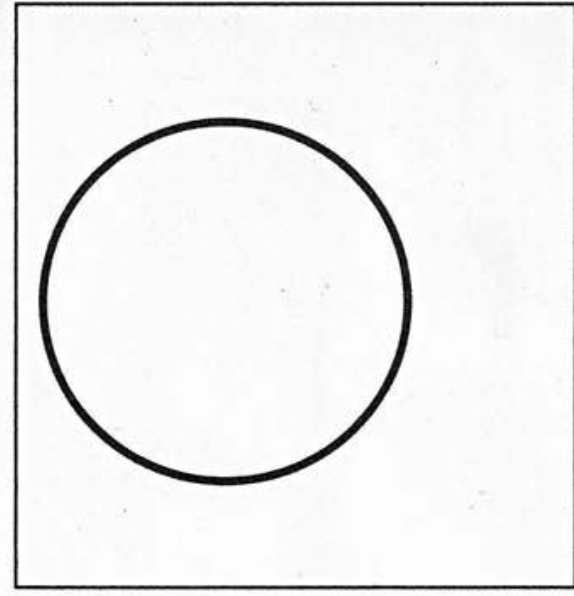
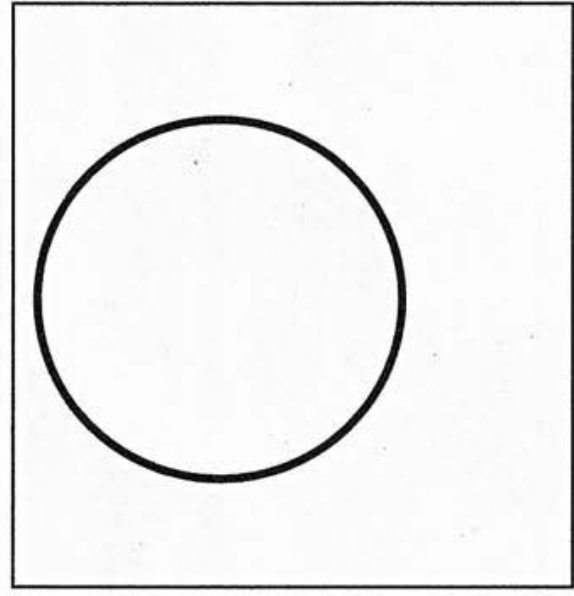
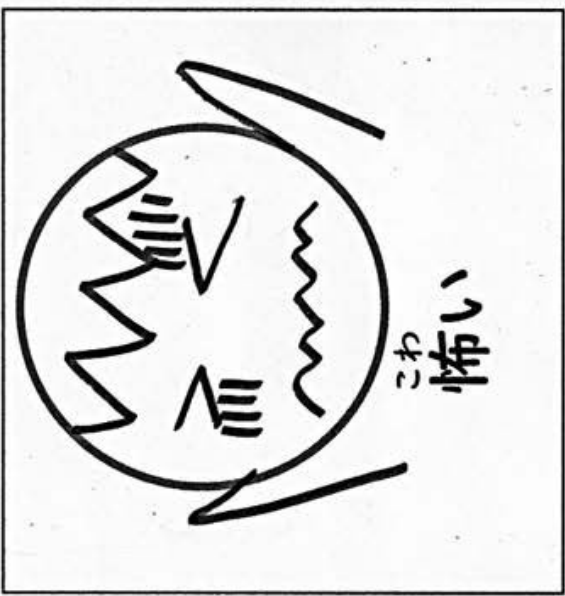
|                 |   |   |
|-----------------|---|---|
| <p>6～7分程度</p>   | <p><b>ワークシート(4回目)に記入</b></p> <p>ワークシートの<sup>おもて</sup>表面使用。</p> <p>1イラストの表情に合う形容詞を線で結ぶ。</p> <p>2これらの形容詞がどんな場面で使われるのか、合う例文を線で結ぶ。</p>  |   |
| <p>10～15分程度</p> | <p><b>場面カード(4回目)</b></p> <p>お母さんと子どものイラストを提示しながら<br/>「私が夜ゲームをしていると、お母さんが私の部屋に入ってきて早くお風呂へ行きなさいと怒られました。あと少してクリアできるのに…。私はどんな気持ちですか。</p> <p>気持ち絵カード ※ひらがな表記5枚を使う<br/>気持ちカード5枚を机に並べ、私の気持ちを選んでもらう。<br/>(いくつ選んでも可。)</p> <p>選んだあと、その形容詞を選んだ理由を聞く。<br/>同じような経験をしていた場合、掘り下げて聞く。<br/>(どんな時におうちの人に叱られるかな?<br/>どうしておうちの人は叱ると思う?? など)</p> <p><b>行動カード(4回目)</b></p> <p>「私はこのあと、どうしたらいいと思いますか」</p> <p>5枚の行動カードを机に並べ、適切な行動だと思うものを選んでもらう。<br/>(該当する答えがない場合は空欄カードを選ぶ。)</p> <p>そのカードを選んだ理由を聞く。<br/>家でゲームをする上でのルールはあるかなど話をふくらませるのも良い。</p> <p><b>セリフを書こう</b></p> <p>ワークシートの裏面を使用。<br/>身近な人に注意された時にどんな言葉で伝えたら良いか考える。</p> | <p>使用する気持ちカード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つまらない</li> <li>・ねっしんだ</li> <li>・めいわくだ</li> <li>・ごきげんだ</li> <li>・かなしい</li> </ul> <p>使用する行動カード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「うるさい!」とお母さんを怒鳴る</li> <li>・お母さんが来ないように部屋の鍵を閉める。</li> <li>・無視してゲームを続ける</li> </ul> <p>このステージをクリアしたら終わると約束する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空欄カード</li> </ul> |

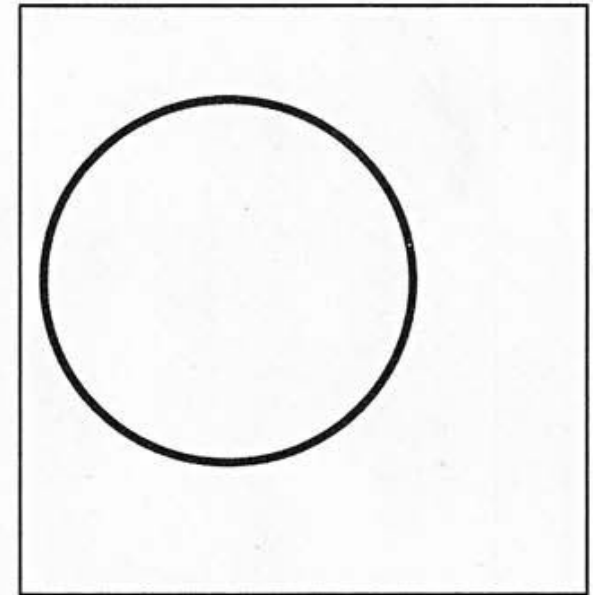
 発展

学んだ形容詞・形容動詞が定着しない時は、イラスト付きで壁に掲示したり、下敷きに貼るなど言葉を発したい時にすぐに目に入るところに提示できるよう工夫する。

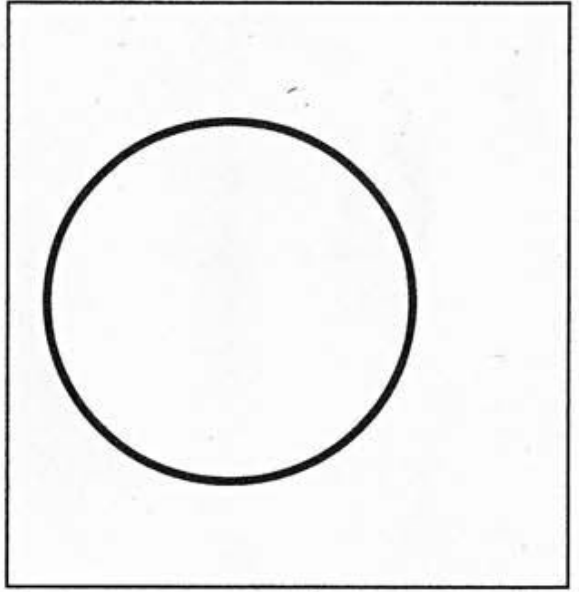
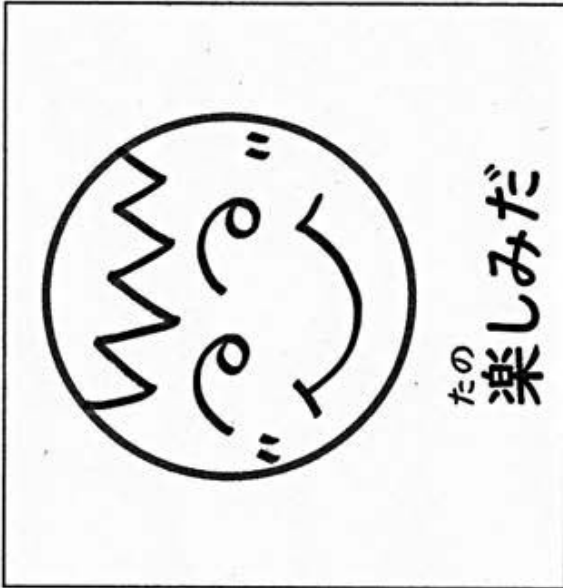


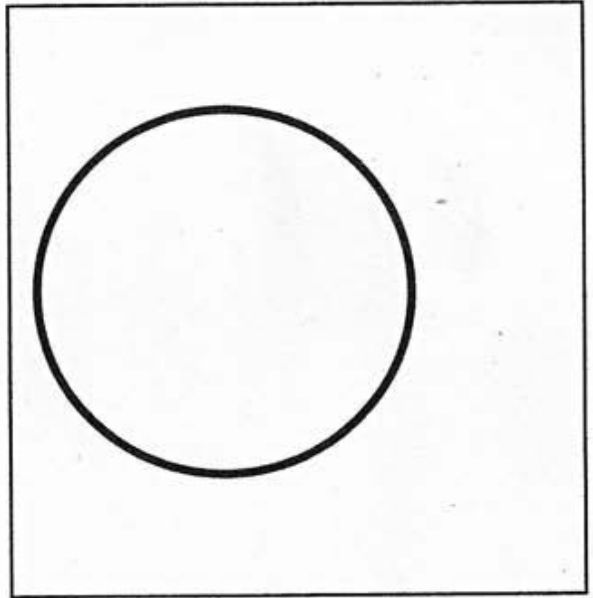
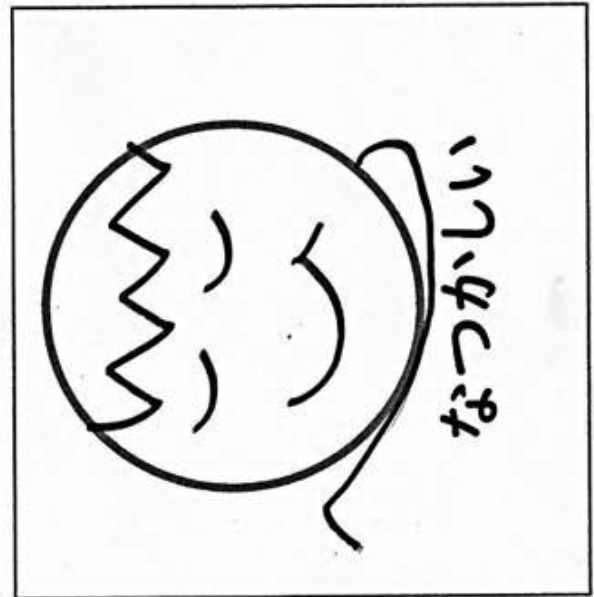
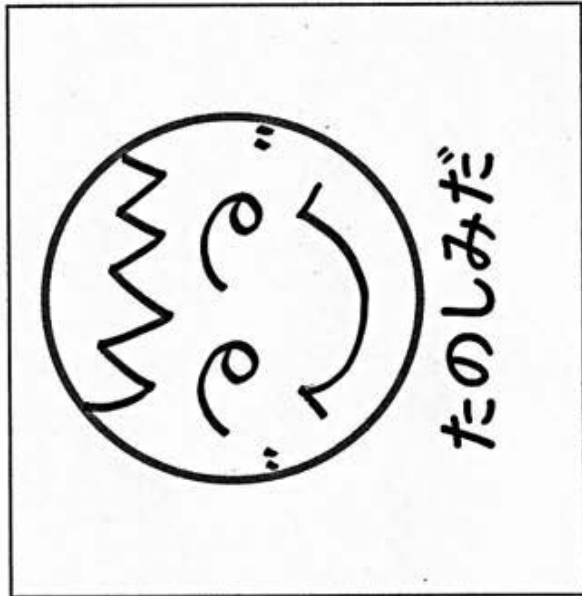


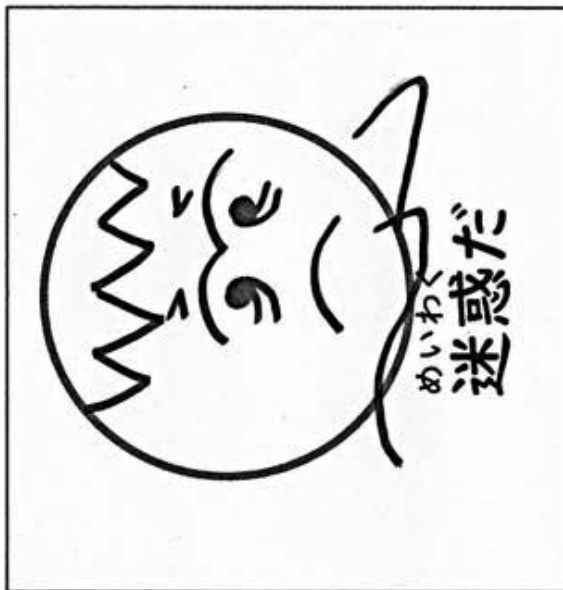
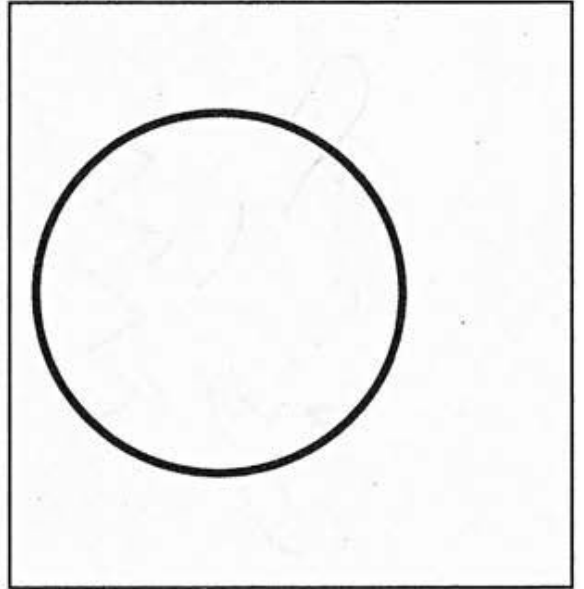
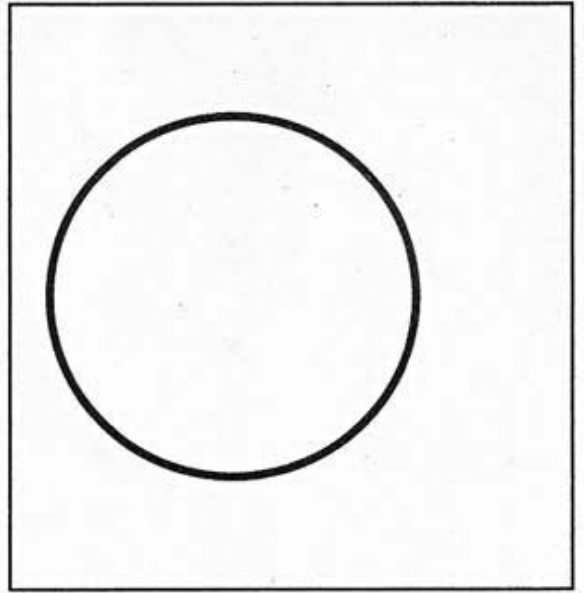


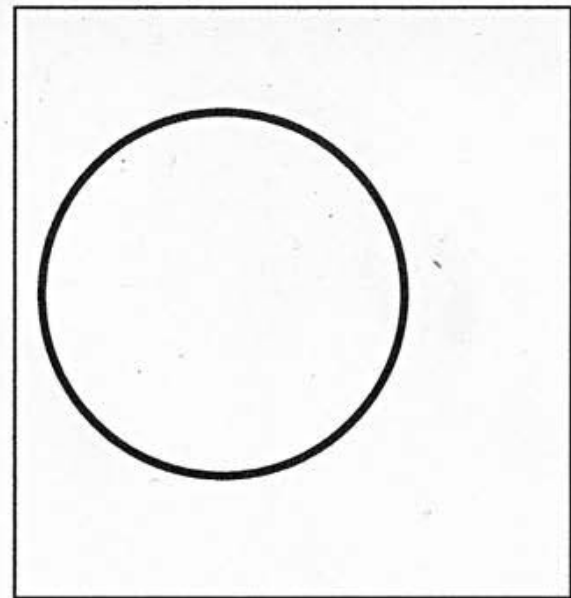
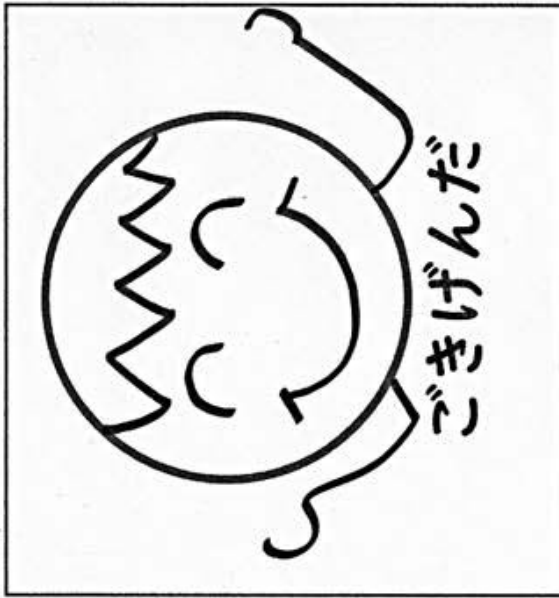












たなかくん も

田中君が持っていたボールをうばって

じぶん な

自分が投げる。

はら た なに い おこ かん  
腹が立つから、何も言わずに怒って帰る。

たなかくん

田中君にきられたくないから、

がまんしてドッジボールを続ける。

ぼくにもボールを回してもらおう、

たなかくん い

田中君に言う。

おに やまもとくん  
鬼おにになつてくれるまで、ずっと山本君を  
タッチしつづける。

やまもとくん ほか ひと  
山本君をあきらめて他ほかの人ひとをおいかける。

やまもとくん き  
山本君に聞きこえるように、タッチしたことを  
つたえる。

おもしろくならうと言いひつて鬼おにの行いいをやめる。

やまもとくん ほーる  
山本君に「ボールをちゃんと

ほう わる い  
よけない方が悪い」と言う。

はなぢ て い わら  
「鼻血が出てるー」と言って笑う。

しんぱい やまもとくん しつ  
心配なので、山本君をほけん室に

つ い  
連れて行く。

たん にん せんせい やまもとくん はなぢ だ  
担任の先生に山本君が鼻血を出した

つた  
ことを伝える。

無視してゲームを続ける。

「うるわー!」とお母ちゃんを怒鳴る。

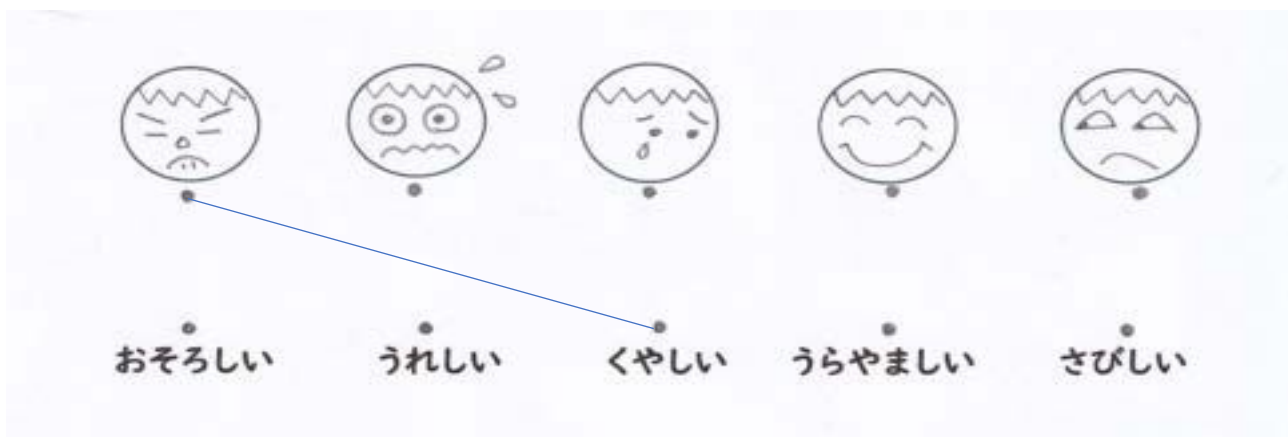
このステージをクリアしたら終わると  
約束する。

お母さんが来ないように部屋の鍵を  
閉める。



# 1. 気持ちをあらわす言葉をおぼえよう

顔と合う言葉を線でつなぎましょう。



# 2. わたしは、どんな気持ちになりますか。

合う言葉を線でつなぎましょう。

50m を8秒で走ることができた。

・さびしい

友達は明日USJに行くそうだ。

・おそろしい

仲のいい友達が遠くに引っこした。

・くやしい

ゲームで負けた。


・うれしい

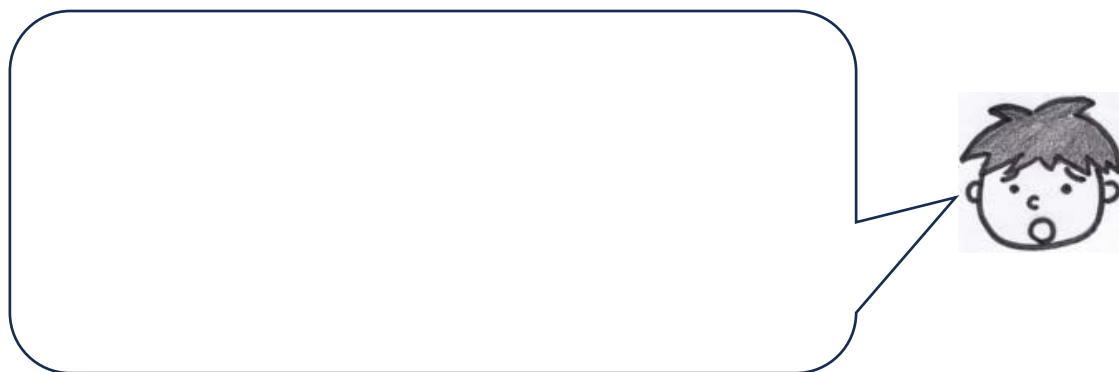
昨日大きな地震がおきて、家のお皿が

・うらやましい

たくさん割れた。

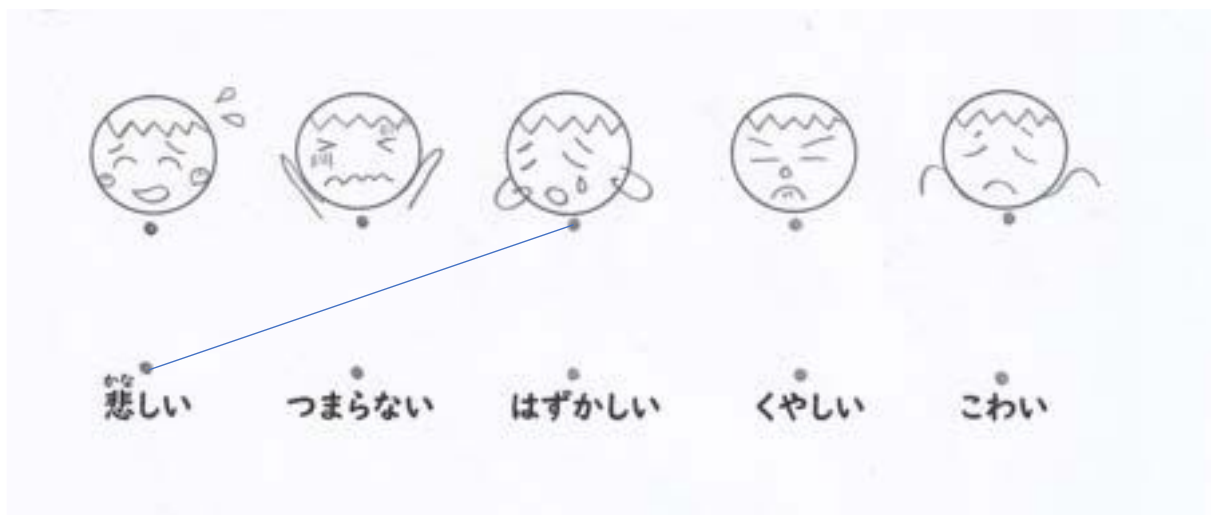
3. ぼくは田中君にどんな言葉をかけたらいとおもいますか。

 か に書いてみましょう。



# 1. 気持ちをあらわす言葉をおぼえよう

顔と合う言葉を線でつなぎましょう。




# 2. わたしは、どんな気持ちになりますか。

合う言葉を線でつなぎましょう。

|                            |   |                |
|----------------------------|---|----------------|
| 友達に悪口を言われた。                | ・ | ・<br>かな<br>悲しい |
| ゾンビに追いかけるられる夢を見た。          | ・ | ・<br>つまらない     |
| 同じゲームばかりして飽きた。             | ・ | ・<br>はずかしい     |
| なかよしの友達が遠くに引っこした。          | ・ | ・<br>くやしい      |
| 学校で先生のことを「ママ」と<br>いってしまった。 | ・ | ・<br>こわい       |

3. 私は山本君にどんな言葉をかけたらいとおもいますか。

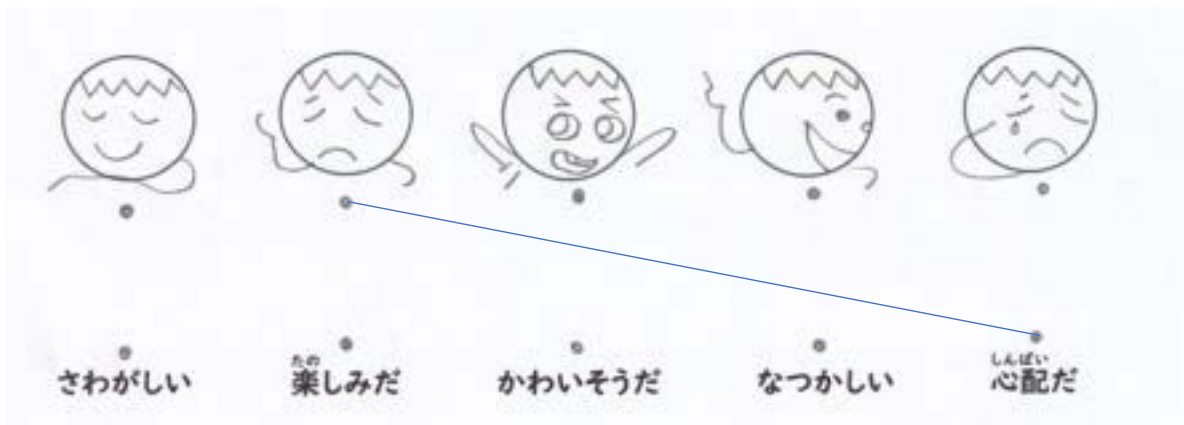
 かに書いてみましょう。



A large, empty speech bubble with a rounded rectangular body and a tail pointing to the right. To the right of the tail is a simple cartoon drawing of a boy's face with spiky hair and a surprised expression.

# 1. 気持ちをあらわす言葉をおぼえよう

顔と合う言葉を線でつなぎましょう。



## 2. わたしは、どんな気持ちになりますか。

合う言葉を線でつなぎましょう。

昔遊んでいたおもちゃが家の中から出てきた。

・さわがしい

毎年3万頭の犬が捨てられているそうだ。

・楽しみだ

仲のいい友達が1週間も学校を休んでいる。

・かわいそうだ


明日大好きなマンガを買ってもらえる。

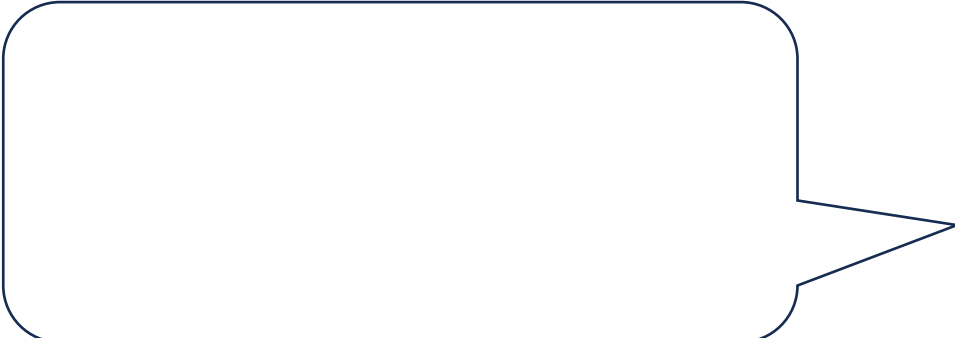
・なつかしい

近所の公園で毎晩大声で歌っている人がいる。

・心配だ

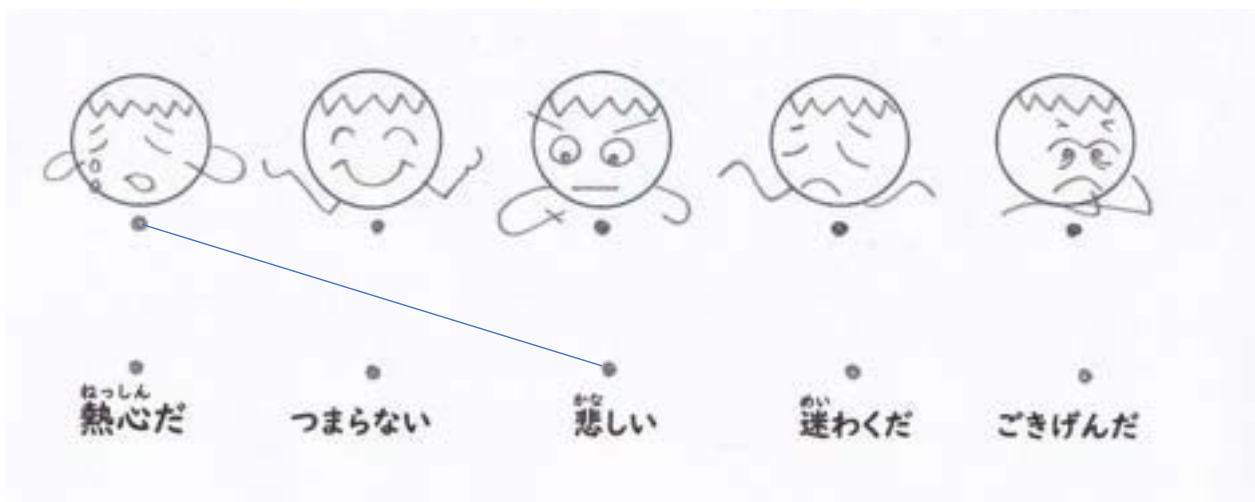
3. 私は山本君にどんな言葉をかけたらいいと思いますか。

 かに書いてみましょう。



# 1. 気持ちをあらわす言葉をおぼえよう

顔と合う言葉を線でつなぎましょう。



# 2. わたしは、どんな気持ちになりますか。

合う言葉を線でつなぎましょう。

放課後友達とけんかした。

・熱心だ

友達がふざけて何回もたたいてくる。

・つまらない

お姉さんが朝からニコニコしている。

・悲しい


せっかく遊んでいたのに友達がすぐ帰った。

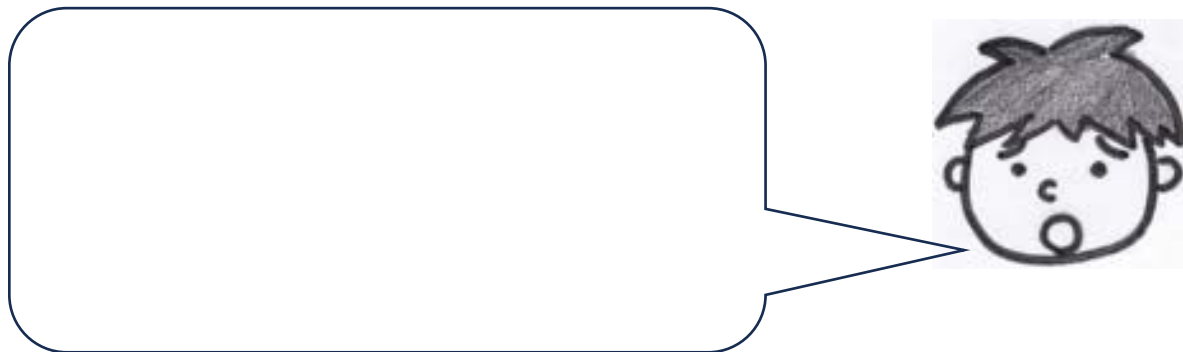
・迷わくだ

お兄さんは毎日サッカーの練習をしている。

・ごきげんだ

3. ぼくはお母さんにどんな言葉をかけたらいとおもいますか。

 かに書いてみましょう。

A large, empty speech bubble with a rounded rectangular body and a tail pointing to the right. To the right of the tail is a small, black and white cartoon drawing of a boy's face with spiky hair and a surprised expression.





|          |  |   |
|----------|--|---|
| 活動名      | (13) 昔話を使って説明する力をつけよう  |   |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・順序立てて話をする力を身につける。</li> <li>・要点をおさえて話すことができる。</li> </ul>  |   |
| 教材教具・準備物 | 日本や世界の昔話・童話<br>一連のストーリーが描かれている絵または写真を用意(参照・福娘童話集)  |   |
| 活動目安時間   | 学習活動   | 備考  |
| 15～20分   | <p>童話、昔話を1冊読む。<br/>(児童が内容を知っていたら、その場で読まなくても良い。)</p> <p>一連のストーリーが描かれている絵(または写真)をバラバラにした状態で机に並べる。</p> <p>時系列になるように並べ替える。</p> <p>全て並べ替えたら、どんな物語だったのか話す。</p> | 児童が一人ですべて読むのが困難な場合は教師と交代等、一緒に読んでもよい。黙読、音読どちらでもよい。 |

参考資料:「世界と日本の童話・昔話集 福娘童話集」 <http://hukumusume.com/douwa/>



### 🌱 発展

・絵(または写真)を見ながら登場人物の気持ちを推測する。

例:童話『かちかち山』おばあさんはどんな気持ちでたぬきの縄をほどいてあげたと思う?

たぬきはおばあさんのことをどう思っていたかな? など

|          |   |    |
|----------|---|----|
| 活動名      | (14) おうちの人に聞いて自国の文化を知ろう   |    |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・母語を話す機会を増やす。</li> <li>・母国に興味、関心を持ってもらう。</li> </ul>                                    |    |
| 教材教具・準備物 | 宿題ワークシート(59ページ)※58ページは例です。  |    |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考 |
|          | <p>宿題のテーマについて、おうちの人に母語で質問する。<br/>(※宿題シートは母語で書いても構いません。<br/>おうちの人が記入しても結構です。)</p> <p>後日、おうちの人に聞いたことについてワークシートを見ながら、教師に伝える。</p> |    |

### 🌱 発展(アレンジ)

おうちの人に教えてもらったことを後日担当教師に話すだけでなく、クラスで発表したり、壁新聞などを作成しても良い。

<その他のテーマ案>

**\*母国の学校と日本の学校との比較**

- ・給食はあるか。
- ・夏休みの期間はどれくらいか。
- ・小、中、高校はそれぞれ何年間あるか。
- ・掃除の時間はあるか。
- ・プールはあるか。

**\*お母さん(もしくはお父さん、おじいさん、おばあさん)の小学校時代について**

- ・どんな行事があったのか。(音楽会、運動会など)
- ・給食の献立
- ・どんな遊びが流行っていたのか。

**\*国の代表的なもの**

- ・有名な〇〇、人気のある〇〇
- ・観光地／建物／スポーツ／食べ物

**\*国の祭り**

- ・春節(中国) ・ランタン祭り(ベトナム) ・ホーリー祭り(インド・ネパール)
- ・カーニバル(ブラジル)

# ひと き おうちの人に聞いてみよう



きにゅう ひ がつ にち  
記入した日 月 日

なまえ \_\_\_\_\_ きいた人 \_\_\_\_\_

げっぺい た もの  
月餅ってどんな食べ物？

にほんご か ちゅうごくご か ひと き  
日本語で書いても中国語で書いてもいいです。おうちの人に聞いてみましょう。

<1>いつ食べますか？

<2>どうして食べますか？

<3>どんな食べ物ですか。(材料・味など教えてください。)

# ひと き おうちの人に聞いてみよう



きにゅう ひ がつ にち  
記入した日 月 日

なまえ  
名前

き ひと  
聞いた人

にほんご か ごと  
日本語で書いても 語で書いてもいいです。おうちの人に聞いてみましょう。

<1>

<2>

<3>



🌱 発展 (アレンジ)

調べた慣用句や独自に作った慣用句でカルタを作ってクラスメイトと複数名で遊びながら学ぶ

🌱 実践者の声

児童は、難しそうな慣用句も勉強した後にすぐ使ってみて良かった。

| 活動名      | (16)多読  |                     |
|----------|---|---------------------|
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢枠相応の話し方ができるようになる。</li> <li>・良好なコミュニケーションが取れるようになる。</li> </ul>   |                     |
| 教材教具・準備物 | 学校図書や多読のフリー素材、タブレット<br>＊NPO 多言語多読「多読のための無料のよみもの」<br><a href="https://tadoku.org/japanese/free-books/">https://tadoku.org/japanese/free-books/</a> (PDF ダウンロード、製本可能、音声あり)<br>＊くろしお出版「Yomujp 日本語多読道場」<br><a href="https://yomujp.com/yomumaeni/">https://yomujp.com/yomumaeni/</a> (音声あり)<br>＊国際交流基金「KC よむよむ」<br><a href="https://www.jpf.go.jp/j/kansai/clip/yomyom/">https://www.jpf.go.jp/j/kansai/clip/yomyom/</a> (PDF ダウンロード、製本可能)<br>＊多言語絵本の会「RAINBOW」<br><a href="https://www.rainbow-ehon.com/">https://www.rainbow-ehon.com/</a> (動画あり) |                     |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考                  |
| 30分程度    | 登場人物の心情が読み取れそうなセリフが多いものや、少し上の学年のものを読むことで、年齢相応の話し方や表現力を身に着ける。<br>読後、あらすじ再生をしながら、登場人物の気持ちを考えることで、人の気持ちを理解する力やコミュニケーション能力を高める。   | 読み物は児童と教師が相談しながら選ぶ。 |

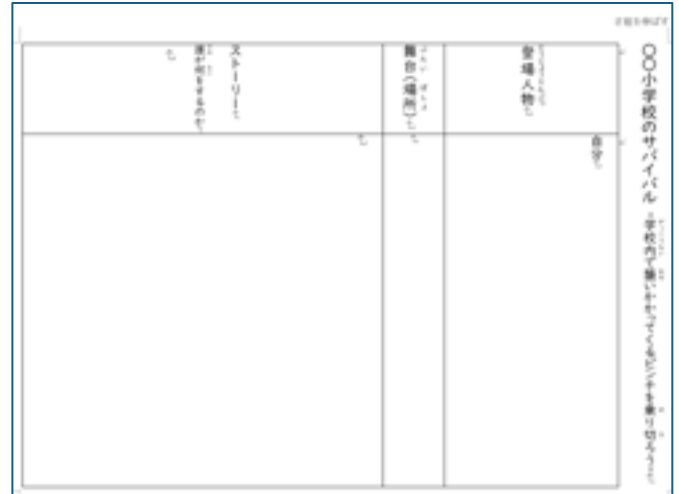


| 活動名      | (17)オリジナルの物語を書こう  |   |
|----------|---|---|
| 目標       | ・才能を伸ばす。(話し好きなどころ、読書好きなどころ)   |   |
| 教材教具・準備物 | アイデアを書き出す用紙、ストーリーを書く原稿用紙、言葉や漢字を調べる辞書  |   |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考  |
| 100分程度   | <b>登場人物と物語の展開を決める</b><br>物語名:○○小学校のサバイバル –学校内で襲いかかってくるピンチを乗り切ろうー<br>・登場人物:自分+好きなキャラクターなど<br>・舞台:どんな場所で起きた物語にするのか考える<br>・ストーリー:誰が何をするのか考える<br><br><b>原稿用紙に物語を書く(教師がチェックする)</b><br><b>発表する(クラスメイトからフィードバックをもらう)</b> | ・対話しながらアイデアをどんどん書き出してみる<br>・児童が好きな本の中に入り込んだ設定にするとアイデアを出しやすい<br>・登場人物を決める際は性格なども |

|  |   |  |
|--|---|--|
|  | <p>【『三びきのこぶた』を使用した登場人物や物語展開の提示例】</p> <p>[登場人物]</p> <p>こぶたの三兄弟:1 番目のこぶた(長男)なまけ者<br/>2番目のこぶた(次男)めんどくさがり屋<br/>3番目のこぶた(三男)おくびょう者</p> <p>おおかみ:こぶたたちを食べようとする</p> <p>お母さんぶた</p> <p>[舞台(場所)] あるところ</p> <p>[ストーリー]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんぶたがこぶた三兄弟に家を建てるように言う</li> <li>・三兄弟が家を建てた後おおかみが来てこぶたたちを食べようとする</li> <li>・おおかみは失敗して帰って行く</li> <li>・もう一度おおかみが来てこぶたたちを食べようとする</li> <li>・三兄弟は協力しておおかみをやっつける</li> </ul> | <p>設定すると良い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セリフと書き言葉の違いに気を付ける</li> <li>・書き終わったら教師と共に見直して必要な箇所は修正する</li> <li>・出来上がった物語はクラスメイトの前で発表するなどして才能を披露する</li> </ul> |
|--|---|--|

登場人物と物語の展開提示例

児童が好きなサバイバルシリーズを学校内を舞台に書く例




参考資料(あらすじ引用例/物語の書き方引用例)

小説あらすじ&ネタバレ情報局「ara-suji.com」

<https://ara-suji.com/fairytale/5270/>

株式会社榎本事務所「榎本メソッド小説講座」

[https://enomotomethod.jp/column/elementary\\_school\\_students/](https://enomotomethod.jp/column/elementary_school_students/)

 実践者の声(実践途中)

・登場人物がどんどん増えていったので、『三びきのこぶた』の例を示して同程度の登場人物に絞った。



|          |  |  |
|----------|--|--|
| 対象児童     | 小学校5年 日本生まれ DLA 評価:話す4.1/読む3.0   |  |
| 課題       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去形や文のつながりが苦手である。</li> <li>・説明や詳細な表現が苦手である。</li> <li>・読む習慣がない。</li> <li>・教科学習の問いと答えの理解が難しい。</li> </ul>   |  |
| 活動名      | (18) 母国について説明しよう   |  |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語で書かれた母国についての本を読み、理解することができる。</li> <li>・他の児童の前で、母国について説明することができる。</li> <li>・質疑応答ができる。</li> <li>・まとまった文章で感想文を書くことができる。</li> </ul>   |  |
| 教材教具・準備物 | 母国について書かれた本<br>模造紙、ペン、タブレット等 ※必要に応じてワークシート①②65-66 ページ  |  |
| 活動目安時間   | 学習活動   | 備考                                     |
| 20~45分程度 | <p><b>母国について、知っていることを話す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が食べ物・学校・建物等テーマを絞って質問する。</li> </ul> <p>図書室に、日本語で書かれた母国についての本を探しに行き、選ぶ。(難しい漢字にルビがふってある本が望ましい。)</p> <p><b>教師と相談し、他の児童に説明したいテーマを選ぶ</b></p>   | 宿題:<br>本(テーマに関する部分)を読む。                |
| 30~45分程度 | <p><b>図書室で借りた本を使って、その中からテーマに関する部分を(黙読・)音読する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は、読めない漢字があったらフォローする。</li> <li>・ページ数が多い場合は、教師が音読部分を指定してもよい。</li> <li>・本を読む過程で、教師は内容に関する質問をする。<br/>それにより、児童が内容を理解しているか確認する。</li> <li>・本の情報が少ない場合や、適した本が見付からない場合は、タブレットから情報を得てもよい。</li> </ul> <p><b>発表方法を教師と一緒に考える</b><br/>(模造紙に書く、タブレットで作成する等)</p> | 質問は口頭でよい。児童が答えられない場合は、書いてある部分を一緒に確認する。 |
| 45~60分程度 | <p><b>発表方法に関する知識を学ぶ</b><br/>(パワーポイントの場合、作成の仕方を確認する等)</p> <p><b>選んだテーマについて、説明文を作成する</b><br/>(必要に応じて、ワークシート①を使用する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験談があれば、書き加える。</li> <li>・教師が日本語のチェックを行う。</li> <li>・必要に応じて、写真やイラストを加える。</li> </ul>  | 必要日数は、進捗状況を見て決める。                      |

|          |   |  |
|----------|---|--|
| 15～30分程度 | <p><b>発表内容に関する質問を考える</b><br/>         (発表時に、クラスメイトにテーマに関する質問をするため)</p> <p><b>質問方法を教師と一緒に考える</b><br/>         (紙に書く、タブレットで作成する、クイズを作るアプリを使う等)</p>  | <p>選択問題の場合は、他の選択肢についても考える。</p>                           |
| 15～30分程度 | <p><b>発表練習をする</b><br/>         (教師の前で、本番と同じように行う。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改善点があれば、手を加える。</li> </ul>  |  |
| 10～15分程度 | <p><b>(在籍学級で)他の児童の前で発表する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の児童に、内容に関する質問をする。</li> <li>・他の児童からの質問に答える。</li> </ul>   | <p>他の児童とのやり取りを大切にする。</p> <p>掲示できる物があったら、教室等に掲示してもらう。</p> |
| 45分程度    | <p><b>発表に関する感想文を書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なるべく複文で書くよう意識する。</li> </ul> <p>(必要に応じて、ワークシート②を使用する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可能であれば、感想文を保護者にも読んでもらう。</li> </ul> | <p>児童が、一連の活動を終えた達成感を味わえることが理想。</p>                       |

 工夫

まとまった時間を使えない場合は 45～60 分程度とした活動も 15 分ずつ取り組むなど複数回にわけて行うのもよい。

私の国の( A: )

どうして( A )のテーマを選びましたか、理由を書きましょう。

体験談があれば、書きましょう。

どんな( A )ですか、くわしく書きましょう。

まとめを書きましょう。

写真/絵

| 発表の感想      |                  |
|------------|------------------|
| 発表してよかったか。 | 発表してよかったことは何ですか。 |
| 発表してよかったか。 | 発表してよかったことは何ですか。 |
| 発表してよかったか。 | 発表してよかったことは何ですか。 |
| 発表してよかったか。 | 発表してよかったことは何ですか。 |

発表してよかったか。

発表してよかったか。

発表してよかったか。

発表してよかったか。

発表してよかったか。

発表してよかったか。

発表してよかったか。

発表してよかったか。

|          |  |   |
|----------|--|---|
| 対象児童     | 小学校5年 日本生まれ DLA 評価:話す 4.7/読む 4.8   |   |
| 課題       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自信が感じられない。</li> <li>・自分の気持ちを表現しない。</li> </ul>  |   |
| 活動名      | (19) 多様な価値観を知り、自分の大切さを知ろう  |   |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性を知ること、自分の世界を広げる。</li> <li>・本に興味を持つ。</li> <li>・感情を表現できる。</li> </ul>  |   |
| 教材教具・準備物 | 本・エッセイ(体験・経験談)   |   |
| 活動目安時間   | 学習活動   | 備考  |
| 10分程度    | <p>児童が興味を持つような体験・経験が書かれた短い文を用意し、児童が読む、もしくは教師が読みあげる。</p> <p>言葉の意味や内容を理解しているか質問することでチェックする。</p> <p>著者の気持ち、自分だったらどう思うか、友だちだったらどう思うか、気持ちに焦点をあて問いかける。</p> <p>【『正々堂々 私が好きな私で生きていいんだ』を使った活動案】<br/>出典:『正々堂々 私が好きな私で生きていいんだ』西村宏堂 サンマーク出版</p>                      | <p>児童が全部知っている言葉で書かれたものが望ましい。読むことが目的ではないので、児童が読むことにはこだわらない。</p> <p>感情を表す言葉を引き出し、教師が補いながら会話をする。使える言葉・表現を増やし、口頭で感情表現できることを目指す。</p> |
| 15分程度    | <p>①著者のプロフィールを紹介する<br/>P146・147(自分だからなれる美しさ)を読む。<br/>言葉・内容を理解しているかチェックする。</p> <p>②コンプレックスを感じていた時の著者はどんな気持ちだった?友だちだったらどう思う?いま自信を持ってる著者の気持ちはどう?等質問する。</p> <p>③コンプレックスがあるか聞き、どう思うか、どう嫌なのか、解消するために何かしているのか等問いかける。</p> <p>④「自分に備わったオリジナリティ」とは何だと思うか考えさせる。</p> | <p>後で児童自身の気持ちを答えやすいように、著者の気持ちについて考えさせ、適宜言葉を補う。</p> <p>コンプレックス解消ではなく、良い感情も悪い感情も表現できることを目指す。</p>                                  |

### 工夫

児童と同じ悩みを持っていた人、同じルーツを持つ人、全く違う個性を持つ人、好きな芸能人などの体験・経験談を取り上げる。

## 🍀 発展 (アレンジ)

・児童のルーツの国について、子ども新聞や本等で取り上げられている記事を読む。

例) 中国の春節について読み、さらに知っていることがあれば教師に教えたり、児童の体験を聞き出す。

・児童の得意なこと・詳しいことを取り上げ、先生に教える。

例) 最近流行のファッションの写真を見せ、教師に教える。自分はどこが好きなのか、どう思うかを表現させる。

・教師や友だちに合う本を見つける。

例) 教師の趣味が料理であれば、自分の国の料理本を図書館で探して来てもらい、日頃から本に目が向くきっかけ作りをする。

## 🍀 実践例

帯の「私、ずっと自分のことを劣等だと思って生きていたの。～」とプロフィールを読み上げ、メモを取らせた。その後自分についてどう思うか問いかけた。自信がない旨の発言があったので、好きなこと・できること/嫌いなこと・できないことを書き出した。

## 🍀 実践者の声

年齢より少し上の本だったのが興味を引いたようで、食いつきが良かった。もともと読書が好きではなかったが、長い文3つくらいまでは読むことができた。



できないこともプラス面に目が向くようにした(例・算数は苦手、でも苦手な人の気持ちがわかる)。自分は散らかすタイプだと思っていたが、片付け出すと徹底的にきれいにするという側面も見つけた。児童の感想として、「書き出すと、意外と好きなこと・できることが多い」と言い、自分の長所に目が向くきっかけとなった。

| 活動名      | (20) 昔と今を比べてみよう  |                  |
|----------|--|------------------|
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙・知識を増やす。</li> <li>・書く力、まとめる力を伸ばす。</li> <li>・時代や価値観の変化を知ること、自分の世界を広げる。</li> </ul>                                   |                  |
| 教材教具・準備物 | タブレット等写真が表示できるもの<br>ノートまたはプリント   |                  |
| 活動目安時間   | 学習活動   | 備考               |
| 10分程度    | <p>昔はあったが今はない、もしくは変化したものを写真で見せ、何だと思うか質問する。</p> <p>正解を伝え、どうして無くなったのか、もしくは変化したのか考えさせる。</p> <p>例) 小学校のごみ焼却炉、プールの目を洗う水道、住所や電話番号記載の連絡網、昔流行した髪型やファッション、学校給食など。</p> | タブレット等<br>(視覚情報) |

|          |                     |                               |
|----------|---------------------|-------------------------------|
| 15～20分程度 | 昔のもの・今のものを表にしてまとめる。 | メリットやデメリットが書ける事柄であれば、一緒に書き出す。 |
|----------|---------------------|-------------------------------|

### 発展

- ・児童の身近な事柄や親から聞けない話が望ましい。
- ・焼却炉は環境問題へ、連絡網は個人情報保護へとつなげることも可能。
- ・教師が子どもの頃や若い頃に流行していた髪型やファッションを取り上げたり、給食なら年代別に何段階かに分けてまとめたりし、未来の給食を考えさせても面白い。
- ・児童の希望により、表を教室に貼ったり、発表させることも可能。

|          |  |  |
|----------|--|--|
| 対象児童     | 小学校5年 日本滞在歴4年 DLA評価:話す4.9/読む3.3  |  |
| 課題       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・漫画家になりたいという夢がある児童に対し、「日本語の学び」と「マンガを描くのに役立つ知識」を並行して身につけられることを目指す。</li> <li>・自律学習ができる段階にあるが、話す力に比べると読む力が弱い。</li> <li>・読んで学んだことを書いてまとめる練習をする。その過程で文章を読み直したり、自分が書いたものを見直したり、分からないことばを調べたりして、精度を高める。</li> <li>・語彙や興味の幅を広げる。</li> <li>・自分の将来について考えるきっかけを作る。</li> </ul> |  |
| 活動名      | (21) 擬音語・擬態語を学ぶ  |  |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現を豊かにする。</li> <li>・擬音語・擬態語の日本語独特の語感を、具体例を通して、理解する。</li> </ul>   |  |
| 教材教具・準備物 | タブレット<br>＊国際交流基金「ひきだす日本語 気持ちが伝わるオノマトペ」<br><a href="https://www.hikidasu.jp/JP/corner/onomatopoeia/">https://www.hikidasu.jp/JP/corner/onomatopoeia/</a><br>＊株式会社パディンハウス「ちびむすドリル小学生 擬音語擬態語」<br><a href="https://happyilac.net/sk1708221548.html">https://happyilac.net/sk1708221548.html</a>              | <br> |
| 活動目安時間   | 学習活動   | 備考   |
| 45分      | タブレットでWEB「ひきだす日本語 気持ちが伝わるオノマトペ」を視聴し、どういう時にそのような気持ち(様子)になるか他児や教師と例を出し合う。その気持ち(様子)の時のジェスチャーをする。  |  |
| 20分      | 「ちびむすドリル 小学生」の擬音語・擬態語の部分を学習する。分かったことをノートにまとめる。その様子を絵で表す。   |  |

|          |   |   |
|----------|---|---|
| 活動名      | (22) 歴史を知る  |   |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生の社会科で日本の歴史を学ぶので、その予習となる。世界史や自国の歴史を学んだり、城郭の作りを学んだりする。マンガのストーリー作りに役立てる。</li> </ul> |   |
| 教材教具・準備物 | 本、マンガ、(『角川まんが学習シリーズ 日本の歴史』(KADOKAWA))、ノート   |   |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考  |
| (自宅学習)   | ①『角川まんが学習シリーズ 日本の歴史』を読む。<br>②印象に残った場面の絵を描く。わかったことをノートにまとめる。<br>・時代によって、衣類・建物・食べ物など、人々の暮らしがどう移り変わってきたかをノートにまとめる。             | 『学習マンガ 中国の歴史』(集英社)<br>『角川まんが学習シリーズ 世界の歴史』(KADOKAWA)も良い。 |



## 🍀 アレンジ

城郭は戦い方・守り方の秘密がたくさんつまっていて魅力的な

『日本100名城のひみつ 小学生のミカタ』(小学館)

『戦国武将が教える 最強!日本の城 日本100名城公式スタンプ帳つき』(日本城郭協会)

『ねこねこ日本史でよくわかる 日本のお城』(カルチャー・プロ)

などを読んで、わかったことをまとめる。

「お城ノート」など、名前をつけたノートを用意するのも楽しい。

参考資料:『天才ノートを始めよう』岩田かおり著(ダイヤモンド社)

それぞれの子どもが好きな分野について調べてノートにまとめる活動を通して、自主性・創造性が育まれる。また、学習習慣、自己肯定感が身に付く。

| 活動名      | (23) プロの漫画家について知る  |  |
|----------|--|--|
| 目標       | ・プロの漫画家になる夢を持っている子どもが、夢をかなえるための具体的な道筋を調べたり、プロの話を知ったりする。  |  |
| 教材教具・準備物 | タブレット<br>＊国際交流基金「ひろがる もっといろいろな日本と日本語 漫画」<br><a href="https://hirogaru-nihongo.jp/anime/">https://hirogaru-nihongo.jp/anime/</a><br>＊ONE PUBLISHING GAKKEN キッズネット「未来の仕事を探せ!」<br><a href="https://kids.gakken.co.jp/shinro/shigoto/comicartist/">https://kids.gakken.co.jp/shinro/shigoto/comicartist/</a> |  |
| 活動目安時間   | 学習活動   | 備考   |
| 20分      | タブレットでWEB『ひろがる もっといろいろな日本と日本語 漫画』を視聴する。プロの漫画家のインタビューが載っている。<br><br>WEB GAKKEN キッズネット「未来の仕事を探せ!」から「漫画家」を読む。   | ほかの職業に興味がある子どもも、このサイトを見て、どうすればそれに近づけるかを知ることができる。 |
| 30分      | わかったことをまとめる。   |  |

## 🍀 実践例



『ひろがる もっといろいろな日本と日本語 漫画』を視聴。一回目は字幕無しで観て、教師が用意したワークシートに分かったことを記入する。二回目は字幕ありで観て、別の色の鉛筆(ペン)で新たに分かったことを記入する。児童が興味を持って内容で聞き取りの練習もできる。


| 活動名      | (24) カタカナ語に強くなる   |  |
|----------|---|--|
| 目標       | ・カタカナ語は、様々な特殊音を含み、日本語独特のリズムがあって、学習者にとってわかりにくいものである。カタカナ語に強くなることで、表現や理解の幅を広げる。マンガにカタカナ語は欠かせない。 |  |
| 教材教具・準備物 | タブレット、本やマンガ、ノート   |  |

| 活動目安時間            | 学習活動  | 備考 |
|-------------------|---|----|
| 20分<br><br>(自宅学習) | <p>「生活カタカナ」のプリントを以下からダウンロードし、その児童にとって簡単なものは飛ばして、ちょうどよさそうなところから取り組む。</p> <p>日本語教育コンテンツ共有システム『生活カタカナ』<br/> <a href="https://www.nihongo-ews.bunka.go.jp/contents/view?id=861">https://www.nihongo-ews.bunka.go.jp/contents/view?id=861</a><br/> 『小学生のまんがカタカナ語辞典—外来語』(学研辞書編集室)を読む。<br/> 本やサイトから、「これは覚えておきたい」と思うカタカナ語を見つけたら「カタカナ語ノート」に記録する。</p> |    |

### 実践報告

「生活カタカナ」の後半部分から、児童が分かるもの・分からないものをチェックし、分からないものの意味を調べた。

| 活動名      | (25) WEB 多読サイトを利用していろいろな分野の読み物を読む   |   |
|----------|---|---|
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味の幅を広げる。</li> <li>・読むことでさまざまな語彙や表現を知る。</li> </ul>  |   |
| 教材教具・準備物 | タブレット<br>くろしお出版「Yomujp 日本語多読道場」<br><a href="https://yomujp.com/">https://yomujp.com/</a><br>NPO 多言語多読「多読のための無料のよみもの」<br><a href="https://tadoku.org/japanese/free-books/">https://tadoku.org/japanese/free-books/</a> | <br> |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考  |
| 5~20分程度  | タブレットで『日本語多読道場』(N3あたりから)、『にほんごたどく 無料のよみもの』(レベル4あたりから)の中から自由に選んで読み、興味の範囲を広げる。語彙も増える。<br><br>読んでわかったことをまとめる。  | レベル別になっているので、ひらがなが読めるようになったらどの子も順次取り組める。  |

| 活動名      | (26) いろいろなピクトグラムを見たり新しく考案したりして、人間の体の描き方を学ぶ   |   |
|----------|--|---|
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マンガを描くために必要なスキルを得る。自ら考案することを楽しむ。</li> </ul>        |   |
| 教材教具・準備物 | タブレット、ノート<br>＊ヒューマンピクトグラム<br><a href="https://pictogram2.com/">https://pictogram2.com/</a> |  |
| 活動目安時間   | 学習活動   | 備考  |
| (自宅学習)   | 『ヒューマンピクトグラム』を見る。<br>新しいピクトグラムを考えて描く。<br>それを描いた理由を文で付け加える。                                 |   |

|          |   |    |
|----------|---|----|
| 活動名      | (27) 中学校がどんなところかを知る。その先の高校、専門学校、大学について知る。   |    |
| 目標       | ・夢を実現させるための具体的な道筋を知り、自分の未来へのイメージを持つ。  |    |
| 教材教具・準備物 | タブレット   |    |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考 |
| 45分      | 自分が進学する中学校や近隣の高校や、マンガが学べる専門学校や大学（大阪デザイナー専門学校や京都精華大学マンガ学部など）のHPを見る。<br>中学校の先輩に中学校生活についてインタビューする。 |    |
| 45分      | 自分の学区の中学校について調べる。   |    |

### 実践報告

タブレットで漫画家になるための専門学校や大学について調べた。マンガ学科は私立大学に多く設置されていることが分かった。

|          |   |    |
|----------|---|----|
| 活動名      | (28) 自分のアイデンティティについて考える   |    |
| 目標       | ・外国につながるの自分自身のアイデンティティについて考えるきっかけを作る。   |    |
| 教材教具・準備物 | ノートまたは原稿用紙等、筆記用具<br>タブレット(必要なら)   |    |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考 |
| (自宅学習)   | 自分の家族に、(母国で)どういう子ども時代、学生時代を過ごしたか聞く。<br><br>母国の学校と日本の学校／昔の学校と今の学校で、何が違って何が同じなのかを知る。<br>思ったことをまとめる。<br><br>自分の家族へのインタビューをしたり、自国の文化などについて調べたりする。 |    |

|          |   |    |
|----------|---|----|
| 活動名      | (29) 待遇表現に気づく   |    |
| 目標       | ・相手の年齢や立場や、相手との関係によって待遇表現が変わることに気づき、その理由を考える。                               |    |
| 教材教具・準備物 | 教科書や本やマンガ   |    |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考 |
| 45分      | 様々な物語やマンガを読んで、話す相手や場面によって言葉遣いが変わることに気づくことができるよう、他児や教師と「どこが違う?なぜこう言う?」と話し合う。 |    |

|          |   |  |
|----------|---|--|
| 対象児童     | 小学校 6 年 日本滞在歴 8 年 DLA 評価:話す 3.5/読む 2.4  |  |
| 課題       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き言葉や場面相応の言葉の使い分けが苦手</li> <li>・助詞や接続詞などのミスがある</li> <li>・読書習慣がなく、文章理解、要約が苦手</li> <li>・理科社会などの分野の小 6 相当の専門用語がやや難しい</li> </ul>   |  |
| 活動名      | (30) 文章を読んで犯人を捜し出す「推理クイズ」   |  |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書嫌いでも抵抗なく、文章を読むことができる。</li> <li>・文章を読んで、内容を理解することができる。</li> </ul>  |  |
| 教材教具・準備物 | 謎解き問題(76 ページ)<br>写真またはイラスト(参考:75 ページ) ※準備できれば加工写真、証言音声  |  |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考   |
| 20 分程度   | <p>*在籍学級での実践を想定</p> <p>推理クイズをチーム対抗で行う。</p> <p>【進め方】</p> <p>①事件現場の写真を見る<br/>(教師の支援:事前準備として事件現場の写真を用意できそうなら用意。できない場合は①を省く)</p> <p>②チームに分かれ、殺人事件の問題文を読む→全員で証言音声を聞く</p> <p>③チームごとに犯人を考察</p> <p>④配布された紙に犯人とその理由を書き出し、先生に説明する</p> <p>⑤質問がある場合は、その場で聞かず、チームごとに個別に聞く<br/>(教師の支援:難しい表現や言葉などの質問があった際は言い換えや説明を行う。)</p> <p>⑥早くできたチームはネタバラシの際、みんなの前で解説する</p> <p>【ルール説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある人からのミッションであることを伝える。<br/>(児童の知っている教師に協力してもらおうと面白い。)</li> <li>・これからチームに分かれ、推理ゲームをしてもらうことを説明。</li> <li>・正解を導けたチームから担当教諭に文章化して説明(声だと聞き耳を立てられるかもしれないため)</li> <li>・チームの説明に見落とししている点があれば証拠不十分としてクリアにはならない。</li> <li>・推理のための制限時間は 5 分程度</li> <li>・時間中、何度回答しにいてもいい。</li> <li>・ただし、回答のタイミングが被った場合は回答数の少ないチームを優先。特に差がない場合は早い者勝ち。</li> </ul> | <p>文への抵抗感を減らしつつ、読む力、読解能力の向上を図る。</p> <p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">読む</span><br/> ↓<br/> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">理解する</span><br/> ↓<br/> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">報告する</span><br/> (アウトプット) </p> <p>【在籍学級で行えない場合】<br/>初回のみ、日本語指導(取り出し)で行う。<br/>他の該当児童と同学年または仲の良い高学年の児童も一緒に呼ぶ。<br/>1 人ではなく、数名の児童と一緒に実施。<br/>人数が少ない場合、チーム分けなどは行わない。</p> |

|  |  |  |
|--|--|--|
|  | <p>*推理問題と回答を書く紙を配布</p> <p>一連のクイズのネタバレ／解説をする。<br/>(推理できたチームから解説させてもいい)</p> <p>【教師の準備】</p> <p>*イラストまたは写真</p> <p>工夫:下の参考イラスト①のような被害者男性の殺害現場の写真を用意する。</p> <p>*録音</p> <p>3名の証言音声を録音しておく。</p> <p>次項の【推理クイズ】文章内の□部分のセリフ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>👤被害者の彼女 B 子(背格好が被害者男性に似ている)</li> <li>👤被害者の親友 D 介</li> <li>👤宅配業者 C 男</li> </ul> <p>児童への配布文はセリフ部分の録音があれば、□部分なしで印刷、できない場合はセリフを含めて印刷して配布する</p> | <p>協力の教師いれば、発表する。</p> <p>イメージがつかみにくい場合、参考イラスト②を用いてもよい。</p> |
|--|--|--|

参考イラスト①



参考イラスト②



すいり  
【推理クイズ】

ころ 殺されたのは、Aとしておこう。かれ ちんたい し 彼は、賃貸アパートで死んでいた。かれ し ちよくぜん さんがん じんぶつ かれ  
パートを訪ねている。三人以外が犯人の可能性はない。A が死んだと思われる時刻にだね、彼に近づきえた  
じんぶつ さんがん まちが ひとりめ ほうもんしゃ もとかのじよ こ  
人物は、その三人しかいない。それは間違いない。一人目の訪問者は、A の元彼女だ。B子としておこう。

しょうげんおんせい ひがいしゃ かのじよ こ  
証言音声① 被害者の彼女 B子

こ わたし ひ かれ いえ わたし いえ すいはんき とど い たくはい まよ  
B子「私はこの日、彼の家に私の家にあった炊飯器を届けに行きました。宅配にするか迷ったんですが、  
たくはい かね ちよくせつ も い  
宅配だとお金がかかるから、直接持って行きました。ですがまさか、こんなことになるなんて…。」

にばんめ たくはいぎょうしゃ お  
二番目は宅配業者の C男。

しょうげんおんせい たくはいぎょうしゃ お  
証言音声② 宅配業者の C男

お おっしやる通り、私 は男性の家に荷物をお届けに参りました。しかし、この時男性は生きていたと思いま  
す。荷物をお届けした際に確かにお受け取りのサインもいただきましたし…ただ時代もありますからマスクをし  
ていたのとメガネもかけていたのでお顔をはっきり見たわけではありません。めんしき ですが、もちろん私と  
ひがいしゃ だんせい あいだ  
被害者の男性との間にはありません。」

そして最後が、D介で、彼は A の友人だ。この D介が死体を発見し、通報した。

しょうげんおんせい ひがいしゃ ゆうじん すけ  
証言音声③ 被害者の友人 D介

すけ ぼく いえ はい ち なが たお けいさつ れんらく  
D介「僕が家に入ると友人が血を流して倒れていたんです。それで、すぐに警察に連絡しました…ですが  
ておく ぼく うたが ゆうじん ころ ぜったい え ゆうじん かのじよ おも  
手遅れで……僕を疑ってるんですか…!? 友人を殺すなんて絶対にあり得ません! 友人の彼女もないと思  
います…僕から見ても本当に仲が良くって…おまけに背格好も似ていたの双子みたいだなんて話をよくし  
ていたんです…」

つまり、宅配業者が被害者宅を訪れた時、被害者は生きていた。だから、B子は、犯人ではない。Aと C男  
には面識がない。争った形跡もなかったときたら、顔見知りの犯行に決まっている。つまり、消去法で、犯人は  
すけいがい  
D介以外にありえない。

ところがどっこい、D介は犯行を完全に否定している。無実を主張しているというわけだ。

きょうき ほうちよう しもん はな おも へや あ  
凶器はキッチンにあった包丁で、指紋はなかった。さっきも話したと思うが、部屋は荒らされていない。もちろ  
ん、B子が A を訪ねた時、A は生きていた。

われわれ し すべ きみ まか  
我々が知っていることはこれで全てだ。あとは君たちに任せた。

## 【解答】

犯人はB子。B子は、A殺害後、Aになりすまして、宅配便を受け取った。D介の証言からB子は、被害者と背格好が似ていると述べられていること、さらにマスクを着けていたため、C男は何も違和感を抱かなかった。

出典:テキストハック「ミステリー推理クイズ・犯人探し」【答え付き】

[https://www.text-hack.com/2022/12/mystery-sui-ri-quiz.html#toc\\_headline\\_1](https://www.text-hack.com/2022/12/mystery-sui-ri-quiz.html#toc_headline_1)

## 🍀 実践報告

上記の推理クイズ問題を使用し、外国にルーツを持つ小学6年生児童7名に実施。

- ① まずは一人で犯人を推理(3分)
- ② 考えたことをペアで話す(5分)
- ③ 二人で考えた推理を報告する→なぜそう思ったか説明できるように (5分)

## 🍀 実践者からの声

在籍学級の実践ではなく、日本語支援が必要な児童らを昼休みに集めて実施したが、全員が非常に積極的に参加した。音声や写真は活動案どおりに準備できなかつたため、アレンジして児童に文章にして読ませた。このあとも、継続して行いたい、クラス単位ではなく、該当児童への課題としたい。

|              |   |    |
|--------------|---|----|
| 活動名          | (31) オノマトペかるた作り   |    |
| 目標           | (小6児童) 自分より年少の児童が困っている際に、母語または日本語でサポートする<br>(小2児童) 小6の話す日本語を聞き、日本語の語彙を増やす<br>いろいろなオノマトペを知る<br>簡単な文章を自分で作れるようにする。  |    |
| 教材教具・<br>準備物 | 日本語指導(取り出し)で使用している日々の学習プリント等<br>オノマトペカード  |    |
| 活動目安時間       | 学習活動  | 備考 |
| 45分          | <b>【事前説明】</b><br>①小2児童は先生からオノマトペについての説明を受ける<br>②オノマトペカードを確認する<br>③カルタを作る説明を受ける<br>④先生がピックアップしたいいくつかのカードに書いている言葉は普 |    |

段どんな時に使っているか考える。読み札の例を見る。

【作成開始】(1日1~3枚を想定)

- ①小2児童がオノマトペの言葉を(カードから)選ぶ
- ②その言葉の意味がわからない場合、小6児童にサポートしてもらう
- ③選んだオノマトペの言葉を使った文(読み札)を考え作成する

※作業時は、児童同士で母語使用をしてもかまわない。

- ④小2の作成した読み札が中国語の場合、小6が訳す  
日本語の場合は、小6児童が小2児童にどのように書けばいいかアドバイスする。

【教師からの支援】

オノマトペとは何かという説明をする。

↓

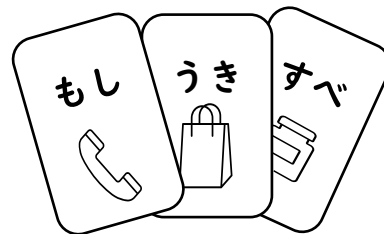
カードを児童に見せ、カルタを作ることを伝える。

(これも小2だけの学習のためではなく、今後も日本語指導(取り出し)で使っていくことを伝える)

↓

教師がいくつか例を提示し、どんな時に使うことばか考えさせる。

(小2児童答えられそうなものを選ぶ)



読み札例

もしもし:「もしもし、もしもし」電話で一番初めに言うことば

うきうき:新しいゲームを買って、うきうきしながら家に帰る。

すべすべ:この魔法の水を付けたら、お肌がすべすべになるんだって!

(※より難易度を上げる場合はオノマトペの説明文を考える)

読み札例

もしもし:電話で話すとき、一番初めにいう言葉

うきうき:うれしいとき、楽しいときのきもち

すべすべ:赤ちゃんのほっぺ

※正確で辞書のように正しくなくても児童の経験から作成したと思われる文はOK

小6児童が小2児童をサポートして進められるとよいが、児童たちだけで作成が難しそうであれば、教師がサポートする。



|  |  |  |
|--|--|--|
|  | <p><b>【教師の支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が作成した文を否定しない。褒める。誤字脱字は指摘する。</li> <li>・児童のほうからアドバイスを求めた場合はそれにこたえるが、こたえすぎない。</li> </ul> <p>完成後、複数人でかるたを実施する。</p> |  |
|--|--|--|

#### 参考教材

SATOMI SUZUKI TOKYO「もしもしカードゲーム へのへのファミリーの日常編」

合同会社まちとこ「ことばを育てるオノマトペカード」 <https://machitoco.com/onomatopoeiacard/>

合同出版「話し言葉・書き言葉が豊かになるオノマトペ絵カード」

<https://www.godo-shuppan.co.jp/book/b492240.html>

#### 実践例

幼児の学習素材館「幼児教材・知育プリント|ちびむすドリル【幼児の学習素材館】(happyilac.net)」を用いて行った。

|          |  |                              |
|----------|--|------------------------------|
| 対象児童     | 小学校6年 日本滞在歴5年 DLA 評価:話す3.7/読む3.5   |                              |
| 課題       | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の漢字を読むことが苦手である。</li> <li>音読も苦手意識があり、流暢度が低く、ゆっくり読み進める。</li> </ul>   |                              |
| 活動名      | (32) 四コマまんがを完成させよう   |                              |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>起承転結を意識する活動を通じて、因果関係を考慮しながら、登場人物の行動や気持ちを考える力の伸長を促す。</li> <li>創作活動を通じて、登場人物の行動や気持ちが生じる理由を文で説明する経験を重ねることを目指す。</li> </ul>  |                              |
| 教材教具・準備物 | ワークシート<br>「高知県庁-まんがを活用した教材について-」【4コマ漫画を完成させよう】p1~3,11<br><a href="https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2019031400268/file_contents/file_20193203114253_1.pdf">https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2019031400268/file_contents/file_20193203114253_1.pdf</a><br>＊発展 Version: 同 p4~10,12~13 |                              |
| 活動目安時間   | 学習活動   | 備考                           |
| 15分      | 提示された四つのコマを見て、コマの順番を考える。<br>それらのコマをワークシートに貼る。<br>他の児童に向かって、並びかえたコマを一つ目から順にストーリーを話す。<br>他の児童によるストーリーについての説明を聞く、または彼からの質問に答える。<br>筋の通ったコマの順番になっている場合は、他の児童がワークシートに花丸を描く。   | ・小学2年生「四コマまんがをかんせいさせよう」と同じ活動 |

### 実践例

・1回目は説明がしっかり聞いていなかったのか、四コマ×3ストーリーを12コマで一つのストーリーを考えてしまっていた。しかし、ストーリーの内容説明を聞くと、とても考えて作っており筋が通っていたため、そのままでもよしとした。

・2回目は四コマ×3ストーリーを考えてもらったところ、よくできていた。

・2年生にもこの活動案をやってみた結果、この活動も学年を超えてできそうだという手応えがあった。2年生の方がよくできていた感触だった。2年生は驚異の速さで並び替え、スムーズに順序よく絵の説明をすることもでき、想像や創作が得意であることが明らかになった。自分の意見を嬉しそうに話していた。

### 工夫

・四コマ漫画の右肩に順番を示す番号がふってあるが、その番号を消して使用した

・一人で考えることに躓いているようであれば、他の児童と相談しながら取り組むよう声掛けする。(その際、それぞれの児童が持つ四つのコマは異なるものにする。)

・もしも1対1で行う時間があるのであれば、一コマずつ見せていき、各コマに描かれている事物について対話しながら理解を深めることもできるだろう。

### 発展

・提示された四つのコマを見て、コマの順番を含めて物語を考える。

四つのコマ、それぞれに文を書きこむ。(実際のまんがのようにオノマトペなどを書き込んでもよい。)完成した四コマまんがを教師に提出する。可能であれば他の児童も読めるように掲示し、他の児童の四コマまんがを読む。お互いに感想を言い合う。

|          |   |  |
|----------|---|--|
| 活動名      | (33)あらすじを伝えよう   |  |
| 目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・短時間での音読活動を繰り返すことで、流暢に音読する力を身に付ける手助けをする。</li> <li>・あらすじを再生をすることで、様々な分野の内容について自分の言葉で端的に説明する力を伸ばす手助けをする。</li> </ul>  |  |
| 教材教具・準備物 | 本、シールやスタンプ(あればポイントカード等)<br>学校の図書館<br>「にほんごたどく」( <a href="https://tadoku.org/japanese/free-books/">https://tadoku.org/japanese/free-books/</a> )等<br>※児童の好きな作品を選ぶ or 教師または保護者が選んだ複数の候補から選ぶ<br>ワークシート<br>【あらすじを書こう】、【クイズをつくろう】、【多読カード】(82-83 ページ)   |  |
| 活動目安時間   | 学習活動  | 備考   |
| 15分      | 学校の図書館 or HP「にほんごたどく」から、本を選ぶ。<br>(a)あらすじ再生 or (b)クイズづくり のいずれかを行う。<br><br>(a)あらすじ再生<br>児童は教師/保護者に音読する。<br>(教師/保護者にあらすじ再生をする。)<br>話した内容を作文として書く。【宿題】<br>ワークシートに「1ポイント(スタンプ/シール)」をもらう。<br><br>(b)クイズ作成<br>本を黙読する。<br>(教師/保護者にあらすじ再生をする。)<br>クイズを3問作る。ワークシート【クイズをつくろう】に記入する。<br>他の児童、先生、保護者等にクイズを出す。<br>ワークシートに「1ポイント(スタンプ/シール)」をもらう。 | ・教師/保護者へのあ<br>らすじ再生は、状況に<br>応じて省略してよいと<br>いう意図を示すため<br>に( )で記している。 |



### 実践例

・本の選択について、児童が選択する時間がなかったため、教師がてのひら文庫より2年生相当の本を提示し、読書に取り組んだ。あらすじを書く作業は、あらすじをまとめて書くことを目標としていないため、分量や誤りなどに対して細かい指摘をしなかった。

・この活動案は、1・2年生にも実施されたので、低学年でも使用可能である。1年生の場合は、教師による読み聞かせて取り組ませたところ、あらすじを書く作業、クイズを作ることも上手にできていた。2年生は複数名での使用だったので、クイズ作りの後、お互いにクイズを出し合うことができた。

・ワークシートにはルビがあるほうがよい。…こちらの指摘を踏まえてルビありに修正しました。

### 工夫

・母語支援員がいる場合には、母語で作文したものを読んでもらい、母語における言語能力や認知能力も把握し、学習に活かしたい。


・ひとりで取り組む想定で、「この期間に〇冊読めるかな?」という形でたくさん読むように促したい。「ポイント制」にして他の児童と競わせることもできる。(読む文章量を減らしたり、あらすじ作文を削除したりすることで他学年の児童も可能。)

・参加者全員がクイズ作成に取り組む、クイズ大会をすることもできる。

【あらすじを書こう】 ( )年( )組( )番 名前( )

|  |      |
|--|------|
| 本のタイトル『 <span style="float: right;">』書いた日：( )月( )日( )曜日</span> | チェック |
|  |      |
|  |      |
|  |      |
|  |      |
|  |      |
|  |      |
|  |      |

.....キリトリ.....

【クイズをつくろう】  ( )年( )組( )番 名前( )

|  |      |
|--|------|
| 本のタイトル『 <span style="float: right;">』書いた日：( )月( )日( )曜日</span> | チェック |
| 第1問  |      |
|  |      |
| 第2問  |      |
|  |      |
| 第3問  |      |
|  |      |

-----やまおり-----

答え

|     |     |     |
|-----|-----|-----|
| 第1問 | 第2問 | 第3問 |
|-----|-----|-----|

【多読カード】

( )年( )組( )番 名前( )

|       |                   |   |
|-------|-------------------|---|
| 1さつ目  | が につ<br>( )月( )日『 | 』 |
| 2さつ目  | が につ<br>( )月( )日『 | 』 |
| 3さつ目  | が につ<br>( )月( )日『 | 』 |
| 4さつ目  | が につ<br>( )月( )日『 | 』 |
| 5さつ目  | が につ<br>( )月( )日『 | 』 |
| 6さつ目  | が につ<br>( )月( )日『 | 』 |
| 7さつ目  | が につ<br>( )月( )日『 | 』 |
| 8さつ目  | が につ<br>( )月( )日『 | 』 |
| 9さつ目  | が につ<br>( )月( )日『 | 』 |
| 10さつ目 | が につ<br>( )月( )日『 | 』 |

#### 4. 講評

日本の公立学校では、外国にルーツを持つ子どもの数が急増し、日本語指導が必要な児童生徒への教育支援が喫緊の課題となっている。日本語指導が必要な子どもは、成人の日本語学習者とは異なり、母語も、人としても成長過程にあるため、ただ「日本語」という言語を教えるだけでは十分ではない。学校では、日本語を使って周囲と関わったり、学習に参加したりすることが求められるため、生活に必要な日本語、さらには、学習に必要な日本語の習得が必要となるが、学習に必要な日本語の習得は、概念の形成や思考力、表現力等の認知的な側面の成長を伴うものである。そのため、その支援では、子どもの発達段階に合った認知的な働きかけが重要となるし、子どもの母語も含めた「ことばの力」を育む視点が欠かせない。言語的な側面以外にも、言語や文化の違いによる戸惑いやストレスを抱えている子ども、「日本語ができない」、「勉強ができない」等、日本語母語話者と比べてできないことばかりに焦点が当てられ、自己肯定感が低くなってしまいう子ども、自己表現ができずにふさぎ込んでしまう子ども、周囲とうまく関われない子ども等、多くの子どもたちが様々な課題を抱えながら過ごしている。このような状況を変えていくためには、まずは、周囲の大人が変わり、そして子どもを取り巻く環境を変えていくことが大切だと考える。

東大阪市で行われた本事業は、まさに、周囲の大人の意識を変え、子どもを取り巻く環境を変えていくためのプロジェクトであったと言える。本事業は、現役の日本語教師および大学や大学院で日本語教育を専攻する学生（以下、日本語教師）と、学校教員との連携を軸に進められたものである。日本語教師は日本語教育のプロであり、日本語力を捉え、日本語の力を伸ばす活動の様々なアイデア、授業の進め方の知識、経験を持っている。一方、学校教員は、子どもの学びを支えるプロであり、子どもの発達にあった活動のアイデア、授業の進め方の知識、経験を持っている。このように異なる専門知識・経験を有する大人が集まり、1年間かけて対象となる児童のことばの力を、DLA を使って捉え、子どもにあった指導方法を考え、実践を行った。

この取り組みを通して特に私の印象に残っているのは、日本語教師側から、子どもたちの興味関心を活かし、子どもの「伝えたい」「話したい」という気持ちを引き出し、子どもたちが楽しく参加できるような活動案が提案され、その活動案を基に、学校教員が子どもの年齢に合った形で、子どもの力を引き出しながら取り出し教室での実践が行われていた事例が複数見られたことである。互いの専門性を活かし、また補完し合うことで、子どもにあった指導案を考え、実施できただけでなく、日本語教師と学校教員との間で、今までになかった視点についての学び合いが起きていた。

今後も、外国にルーツを持つ子どもの支援では、異なる分野の専門家の連携は不可欠である。今回のプロジェクトを通して、まだ一部ではあるが、東大阪市の中に、子どもの支援について日本語教師と学校教員とがつながり、共に考える土台ができたと言える。このつながりが、今回限りで終わってしまうことなく、今後も継続され、さらに広がり、外国にルーツを持つ子どもを取り巻く環境がよりよい方向へと変わり続けることを期待したい。

米澤千昌

## 謝辞

本報告書はその事業についての説明と研究活動及び指導・活動案をまとめたものである。本研究を進めるにあたり、東大阪市公民連携協働室及び人権教育室の担当者の方々、小学校で教鞭をとる日本語指導加配教員等のご協力をくださった先生方、小学校でDLA判定を行い指導活動案を作成した日本語指導研究協力者の方々、DLA判定を受けた子どもたち等、多くの方々の協力を得た。ここで感謝の意を表したい。本事業により普段はなかなか接点を持たない人々が連携して児童の学習支援を行う機会を得た。1年という短期間の研究活動であったが、連携しながら課題を共有していった。本研究活動で築いた連携が今後も小学校での支援として継続して機能することを願う。

### 代表者

藤井みゆき(東大阪大学)

共同研究者(日本語指導研究アドバイザー)

小川佳子(大阪大学非常勤講師)

樋口尊子(大阪樟蔭女子大学非常勤講師)

### 協力者

中西千奈都(東大阪大学)

総括アドバイザー

米澤千昌(大阪教育大学)

日本語指導研究協力者(50音順)

青田宏枝 植野早織 浦志美奈子 大谷紫莉 小野真由子

金子美優 小林くに子 谷川 静 中村暁子 バブコック真知子

---

令和5年東大阪市地域研究助成金事業

日本語教育従事者による日本語能力判定(DLA等のアセスメント)をもとにした日本語指導報告書

発行日 2024年3月28日

---